

上越市内地区別の地域介護分析について

令和7年3月
上越市創造行政研究所

もくじ

01. 分析の目的
02. 分析方法
03. 分析の背景
04. 結果の概要（上越市全体）
05. 結果の概要（地域自治区別）
06. まとめ



01. 分析の目的

02. 分析方法

03. 分析の背景

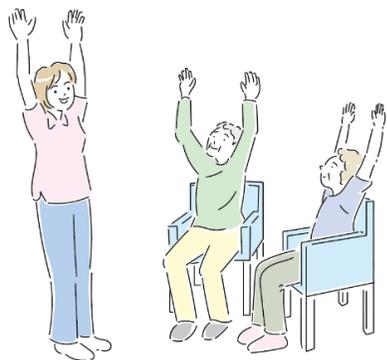
04. 結果の概要 (上越市全体)

05. 結果の概要 (地域自治区別)

06. まとめ

地区別の地域づくりを健康づくりの視点から考え、地域づくりを通じた健康づくりを推進する基礎情報とするため、介護保険データを用いた健康度の地域特性を見だし、分析を行う。

- 分野を横断した「合わせ技」の地域自治を行うための基礎データとする
- 健康の視点から見た地域づくりの目標（評価指標）を設定する
- 健康づくり推進の参考情報とする



01. 分析の目的

02. 分析方法

03. 分析の背景

04. 結果の概要（上越市全体）

05. 結果の概要（地域自治区別）

06. まとめ

◆主な分析項目

- 要介護認定率（男女5歳階級別、28地域自治区別）
- 生残率（男女5歳階級別、28地域自治区別）
- 平均介護度（男女5歳階級別、28地域自治区別）
- 介護費用（男女5歳階級別、28地域自治区別）
- 介護費用の将来予測（28地域自治区別）

◆調査時点 令和6（2024）年4月30日

◆使用データ

- 介護保険システムの認定者等のデータ（高齢者支援課）
- 介護保険の認定者の住基異動データ（市民課）

◆分析手順

(1) 被保険者数（対象者数）の調整

システムの都合上、地区ごとの被保険者数が抽出できなかったため、被保険者数は人口を元に補正した数値とした。

(2) 特別養護老人ホーム入所者の調整

地域での暮らしがどう健康度に影響するかを調査

➡ 特別養護老人ホーム入所者は、入所前の暮らしの影響を知りたいことから、前住所地で分析

① 要介護認定者12,244人のうち、特別養護老人ホーム入居者 1,594人

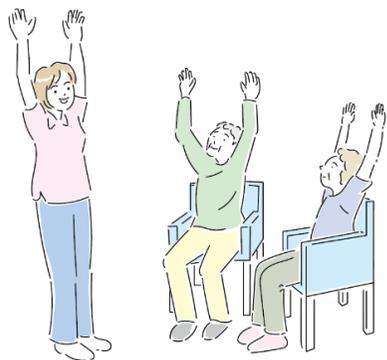
住基異動なし 499人

同じ地域自治区内で異動 356人

他の地域自治区から異動 739人 ➡ 入所前の地域自治区に戻して計算

② あわせて、上越市の居住地特例者158人（上越市の介護保険加入者で上越市外の特別養護老人ホーム入所者）についても、入所前の地域自治区に戻して計算

「**地区内に特養が立地するため要介護認定者が多い**」
としてもその影響は理論上取り除いている



01. 分析の目的

02. 分析方法

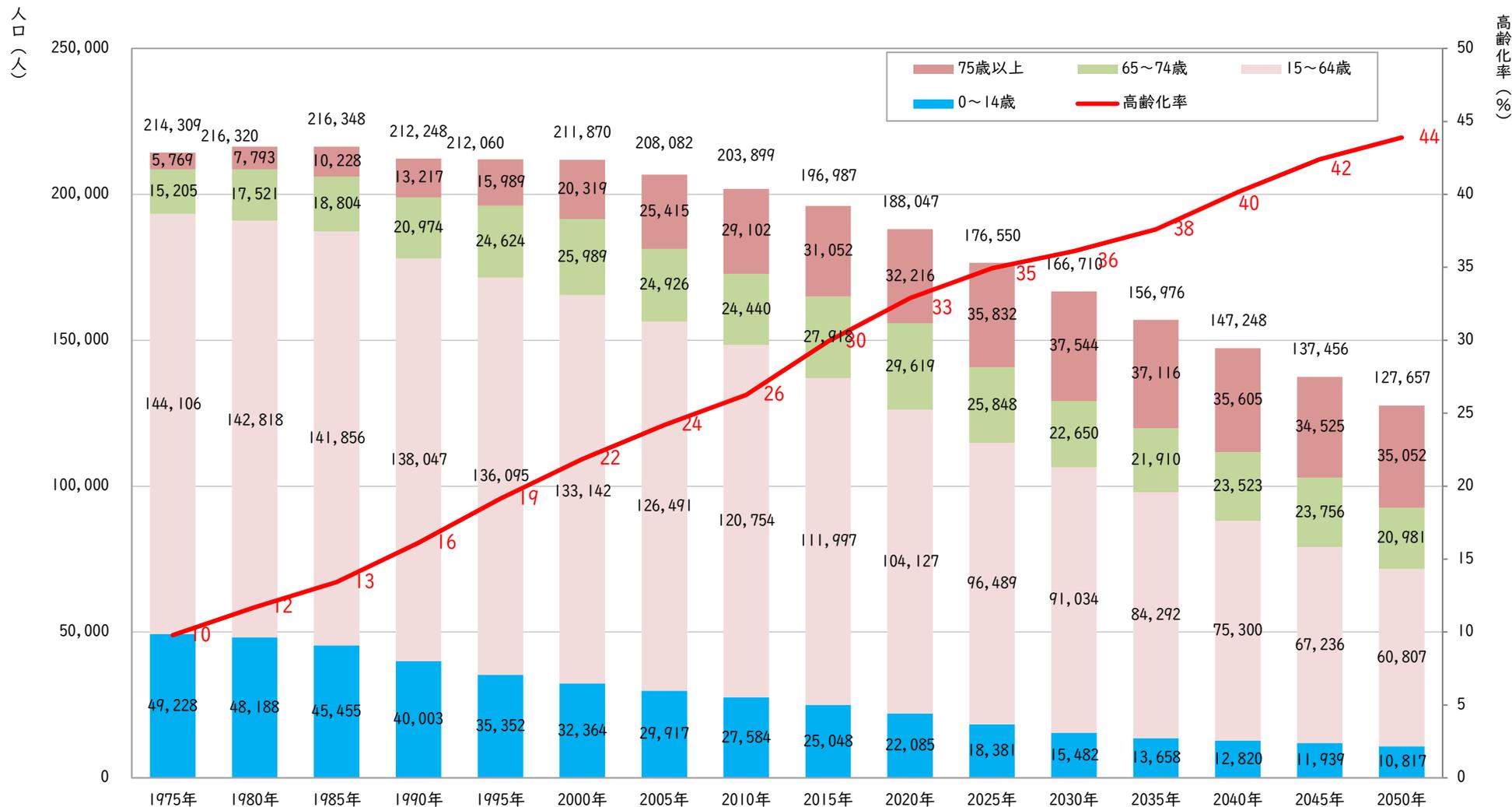
03. 分析の背景

04. 結果の概要 (上越市全体)

05. 結果の概要 (地域自治区別)

06. まとめ

(1)年齢別人口の推移(将来予測を含む)

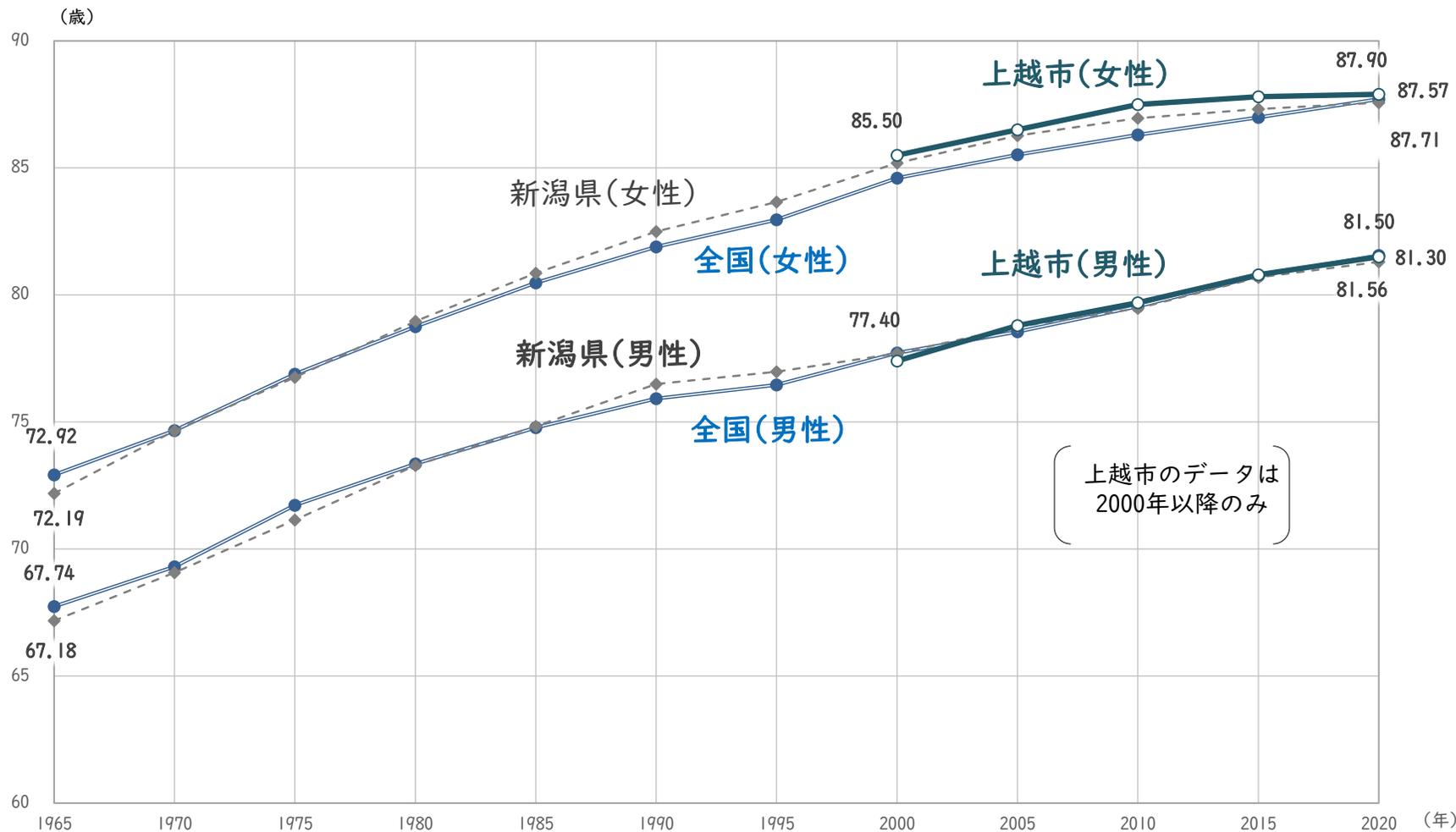


出所) 国立社会保障・人口問題研究所

図1-1 上越市の年齢別人口の推移

・今後も人口減少と高齢化が進むものと予測される。

(2)平均寿命



出所) 厚労省「都道府県別生命表」「市区町村別生命表」

図1-2 平均寿命

- ・ グラフに記載のある1965年以降、右肩上がりに延びている。
- ・ 全国・新潟県と比較し、男性はほぼ同程度、女性はやや長寿の傾向がある。
- ・ 長寿における生活の質（QOL）の維持も重要である。

(3)死因

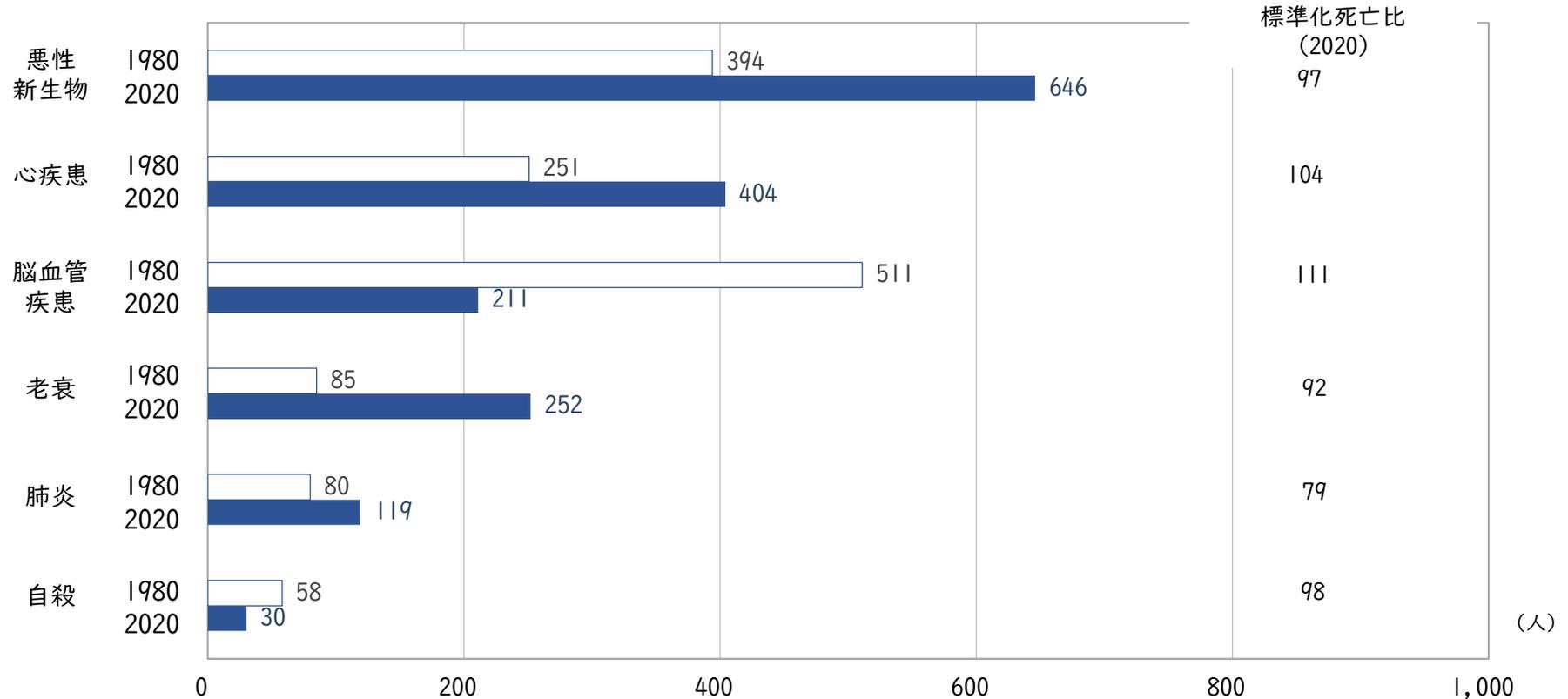


図1-3 上越市の死因別死亡数

出所) 新潟県「福祉保健年報」

・40年前と比較すると、人口構成や死亡率の変化を加味しても、死因の上位は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患であり、若干の順位変動は見られるものの、その傾向に大きな変化はない

・40年前より減少しているものの、他市と比較すると脳血管疾患が死因の割合が高く、その後遺症で要介護認定を受ける方が、他市よりも多い可能性がある。

(4)要介護認定率（全国平均と上越市の比較）

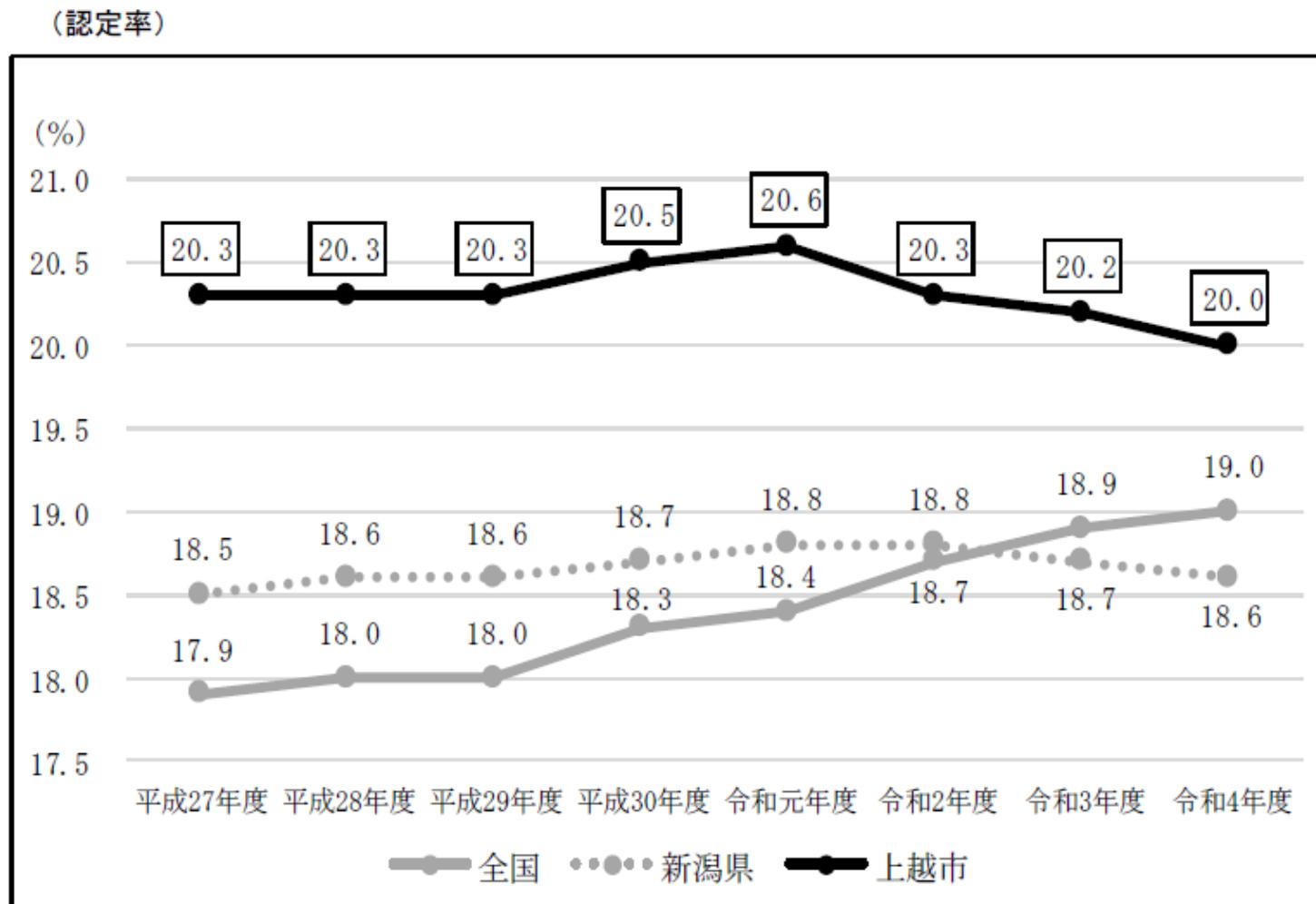


図1-4 認定率の全国、新潟県との比較 (各年度3月31日現在)

出所) 上越市第9期介護保険事業計画・第10期高齢者福祉計画 (上越市、2024年、33ページ)

- ・ 全国平均との差は縮まりつつあるが、やや高い水準で推移している。
- ・ 地域自治区間で比較検討し、その差異を分析する必要がある。



01. 分析の目的
02. 分析方法
03. 分析の背景
- 04. 結果の概要（上越市全体）**
05. 結果の概要（地域自治区別）
06. まとめ

以下の項目について、上越市全体の値を全国と比較する。

① 要介護認定率

② 要介護認定を受けた場合の平均介護度

③ 年齢階級別の介護費用

➡ 長期的に介護サービスの供給が対応可能な人口は？
その人口を安定化させる定住目標は？

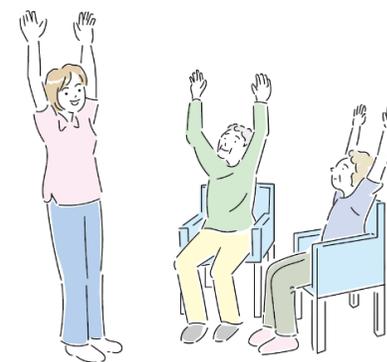


図2-1	年齢階級男女別 被保険者数・認定者数及び認定率	16
図2-2-1	年齢階級別要介護認定率（男性）	17
図2-2-2	年齢階級別要介護認定率（女性）	
表2-1-1	年齢階級別要介護認定率（男性）	
表2-1-2	年齢階級別要介護認定率（女性）	
図2-3-1	65～69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】（男性）	18
図2-3-2	65～69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】（男性）『全国』	
図2-4-1	65～69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】（女性）	19
図2-4-2	65～69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】（女性）『全国』	
図2-5-1	年齢階級別平均介護度【認定者のみ】（男性）	20
図2-5-2	年齢階級別平均介護度【認定者のみ】（女性）	
表2-2-1	年齢階級別平均介護度【認定者のみ】（男性）	
表2-2-2	年齢階級別平均介護度【認定者のみ】（女性）	
図2-6-1	年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（男性）	21
図2-6-2	年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（女性）	
表2-3-1	年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（男性）	
表2-3-2	年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（女性）	
表2-4	介護度別の認定者数及び平均介護費用	22
図2-7-1	年齢階級別1人当たりの介護費用（男性）	23
図2-7-2	年齢階級別1人当たりの介護費用（女性）	
表2-5-1	年齢階級別1人当たりの介護費用（男性）	
表2-5-2	年齢階級別1人当たりの介護費用（女性）	
図2-8-1	要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額（男性）	24
図2-8-2	要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額（女性）	
表2-6-1	要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額（男性）	
表2-6-2	要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額（女性）	
図2-9	今後の人口予測（現行推移モデル）	25
図2-10	年間介護費用の推移（現行推移モデル） 費用上越ver.	26
図2-11	今後の人口予測（人口安定モデル）	27
図2-12	年間介護費用の推移（人口安定モデル） 費用上越ver.	28

(1)要介護認定率（上越市・男女5歳階級別）

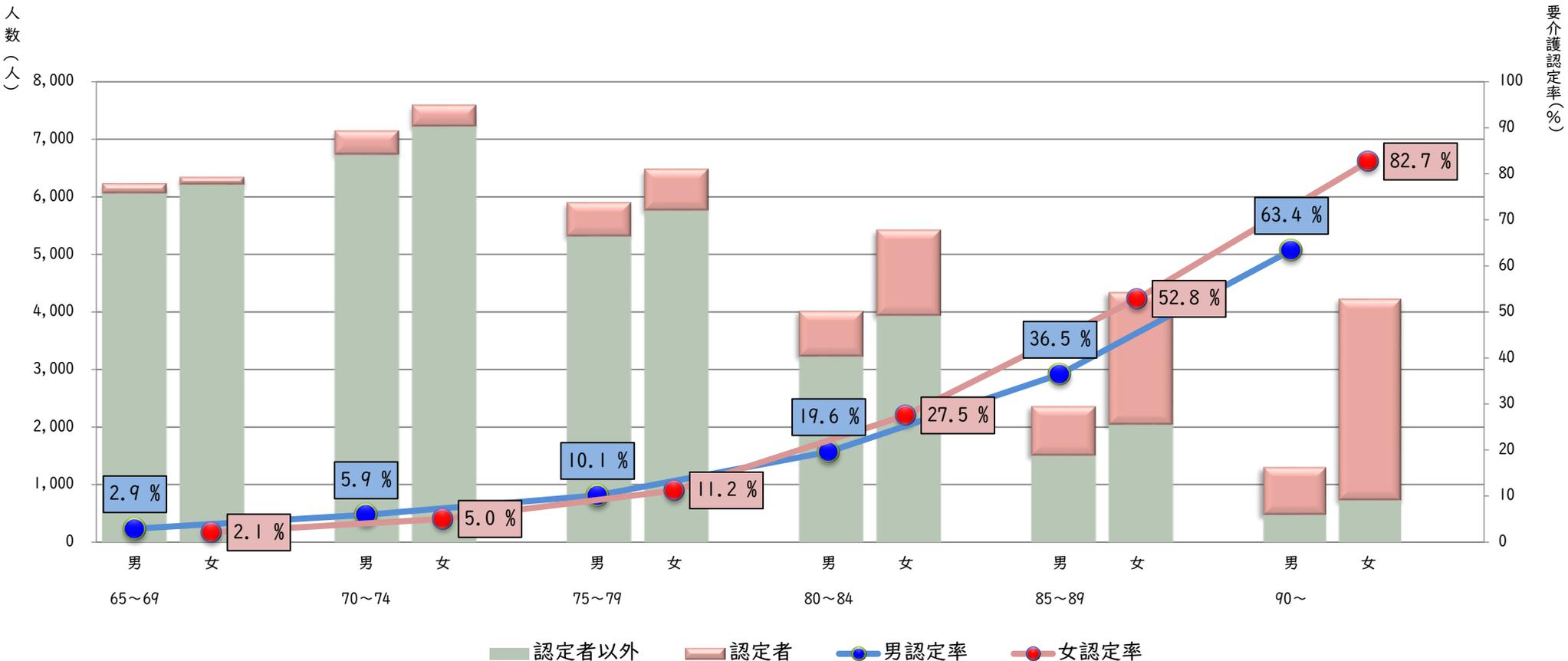


図2-1 年齢階級男女別 被保険者数・認定者数及び認定率

- ・ 要介護認定率は、性別・年齢によって異なる。
- ・ 90歳以上では63~83%が認定者。
- ・ 認定率は75歳以上で女性が男性を上回り、認定者全体の約7割は女性。
(男3,697人、女8,547人)

➡ 左記3点とも全国と同じ傾向

(1)要介護認定率 (全国平均と上越市の比較・男女5歳階級別)

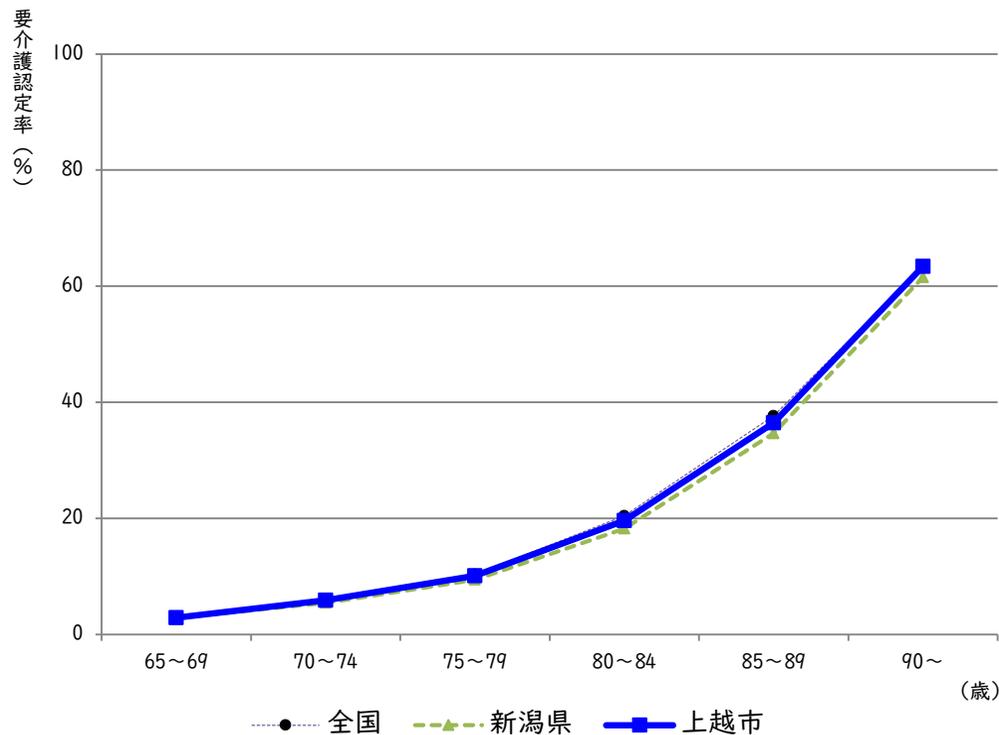


図 2 - 2 - 1 年齢階級別要介護認定率 (男性)

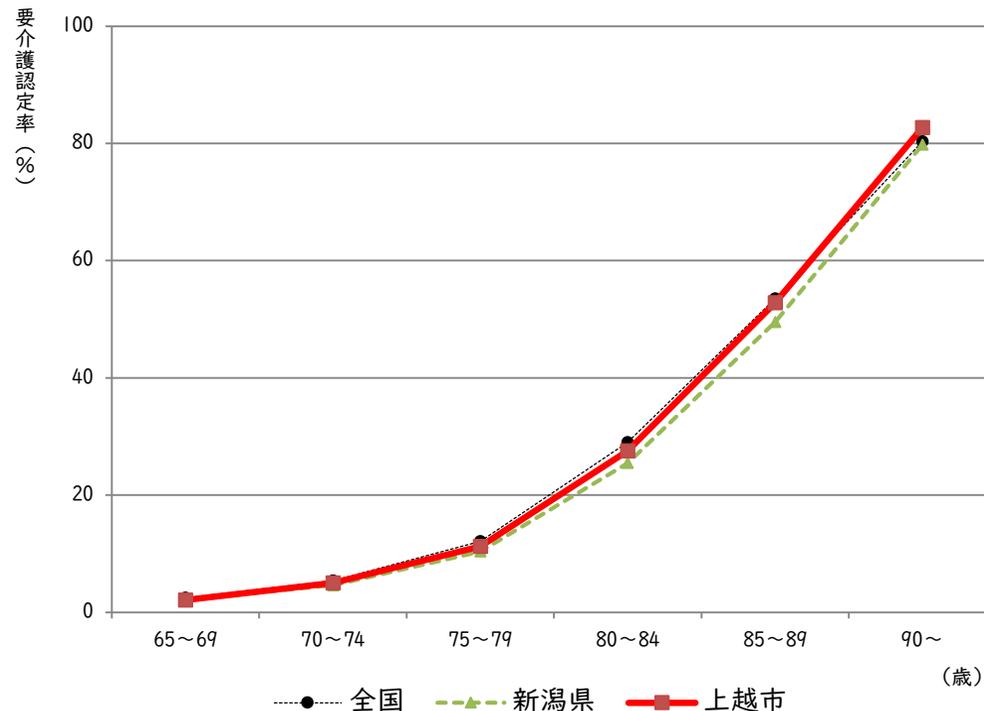


図 2 - 2 - 2 年齢階級別要介護認定率 (女性)

表 2 - 1 - 1 年齢階級別要介護認定率 (男性)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
上越市	2.9%	5.9%	10.1%	19.6%	36.5%	63.4%
新潟県	2.9%	5.5%	9.5%	18.3%	34.7%	61.5%
全国	3.1%	5.9%	10.3%	20.5%	37.7%	63.4%
全国との差	▲0.3%	0.0%	▲0.2%	▲0.8%	▲1.2%	▲0.0%

表 2 - 1 - 2 年齢階級別要介護認定率 (女性)

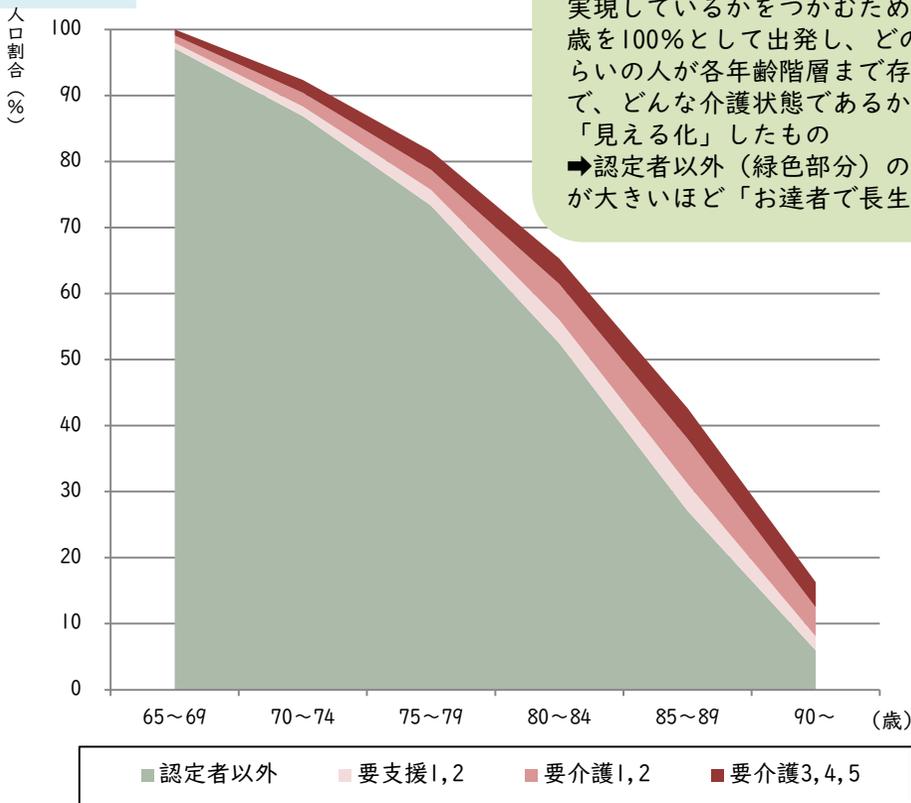
	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
上越市	2.1%	5.0%	11.2%	27.5%	52.8%	82.7%
新潟県	2.2%	4.6%	10.4%	25.5%	49.5%	79.8%
全国	2.5%	5.4%	12.1%	29.0%	53.5%	80.3%
全国との差	▲0.4%	▲0.4%	▲0.9%	▲1.5%	▲0.7%	2.3%

全国平均と同程度か若干低い

やや高い

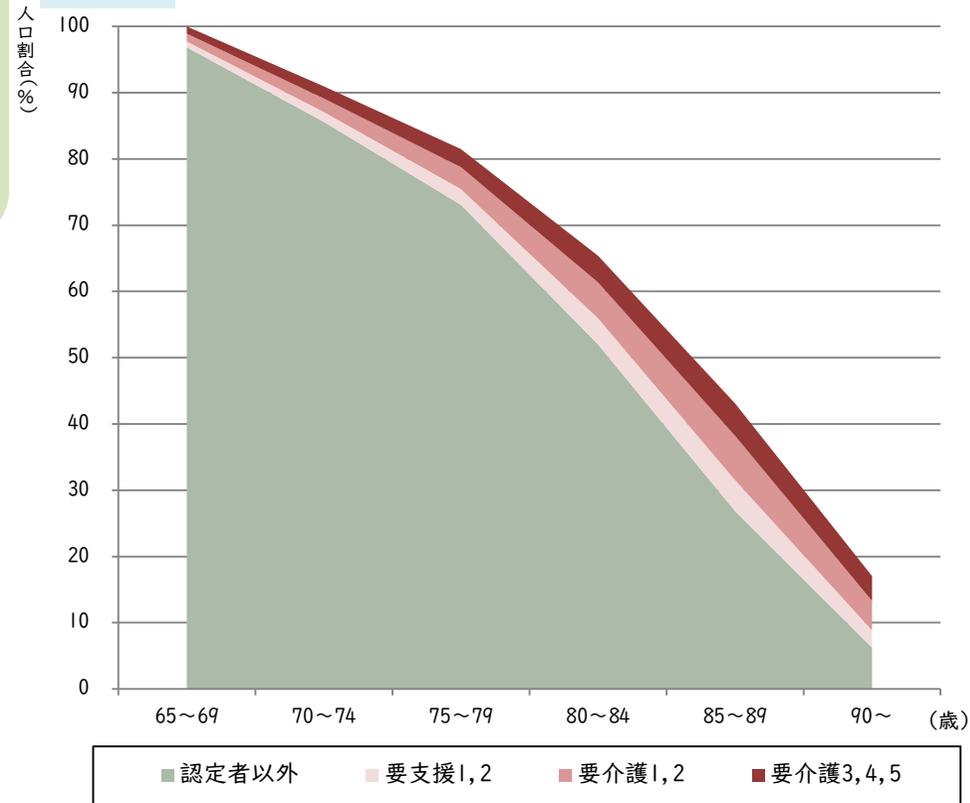
(2) 生残率と要介護認定の状況（全国平均と上越市の比較・男性）

上越



人口指標：68 **認定者以外指標：58** 認定者以外率：85.7%

全国



人口指標：68 **認定者以外指標：58** 認定者以外率：85.2%

図2-3-1 65~69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】（男性）

図2-3-2 65~69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】（男性）『全国』

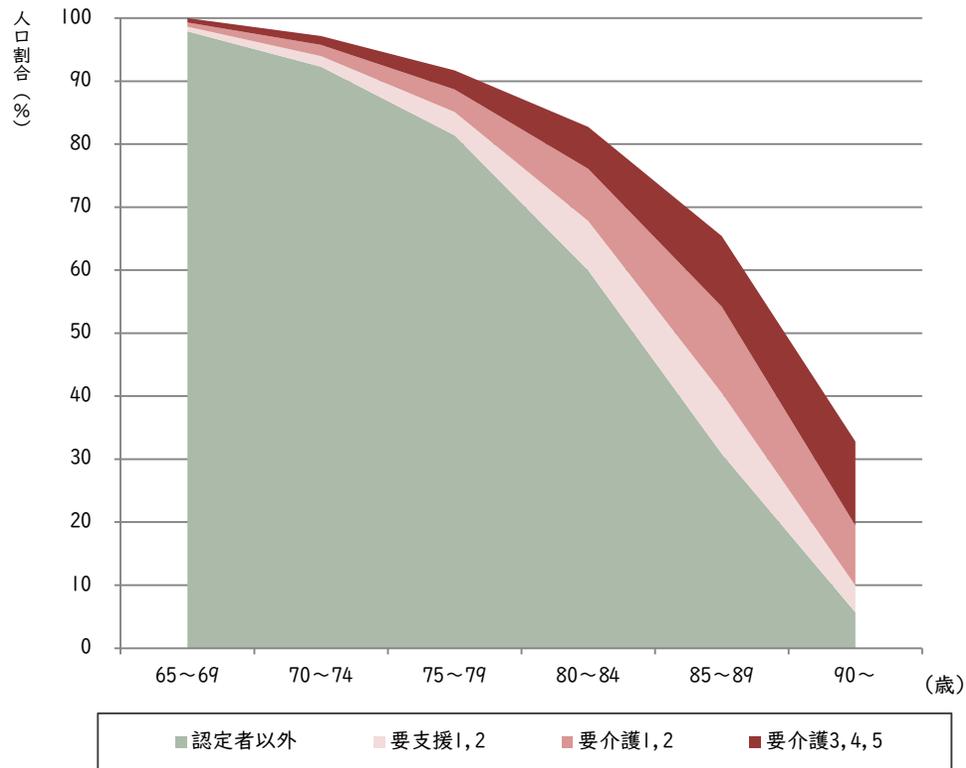
$$\begin{aligned} \text{人口指標} &= \text{長生き度} \\ \text{認定者以外率} &= \text{お達者な人の割合} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{認定者以外率指標} &= \text{長生きかつお達者な人の割合} \\ &= \text{お達者度} \end{aligned}$$

人口指標・お達者度ともに全国平均値

(2)生残率と要介護認定の状況 (全国平均と上越市の比較・女性)

上越

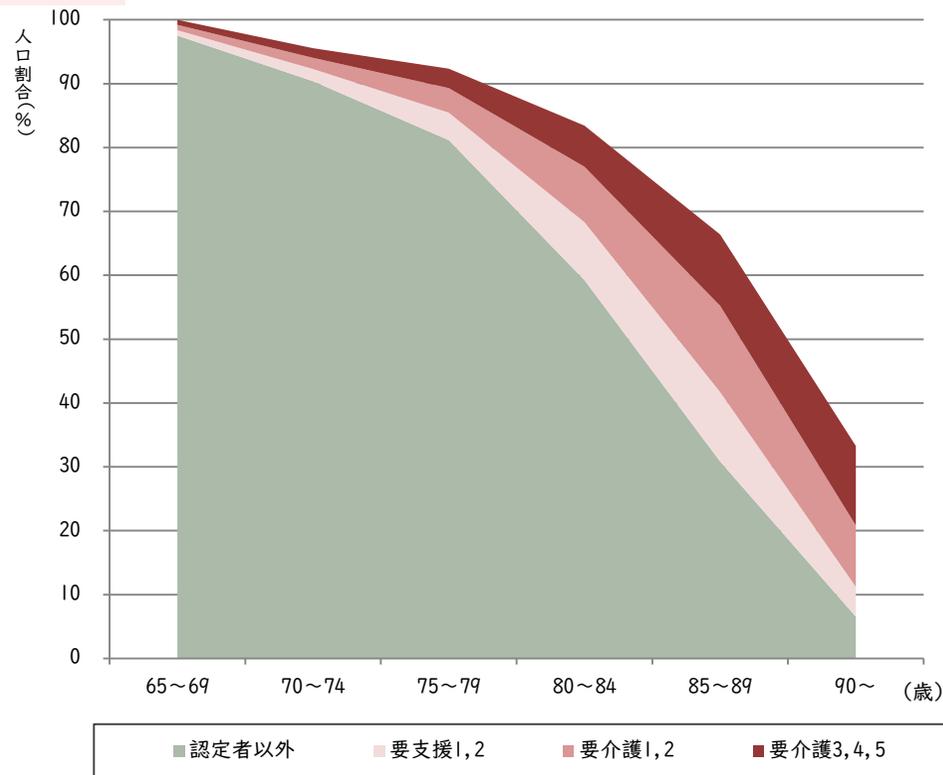


人口指標：81

認定者以外指標：63

認定者以外率：78.4%

全国



人口指標：81

認定者以外指標：63

認定者以外率：77.6%

図2-4-1 65~69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】(女性)

図2-4-2 65~69歳の階級人口を100とした場合の生残率から推計した年齢階級別人口割合と認定者率・平均介護度【認定者のみ】(女性)『全国』

人口指標 = 長生き度

認定者以外率 = お達者な人の割合

認定者以外率指標 = 長生きかつお達者な人の割合
||
お達者度

人口指標・お達者度ともに全国平均値

(3)平均介護度（全国平均と上越市の比較・男女5歳階級別）

要介護認定を受けている人の介護度を平均化したもの
 (ここでは要支援1=1、要支援2=2・・・要介護5=7に換算)

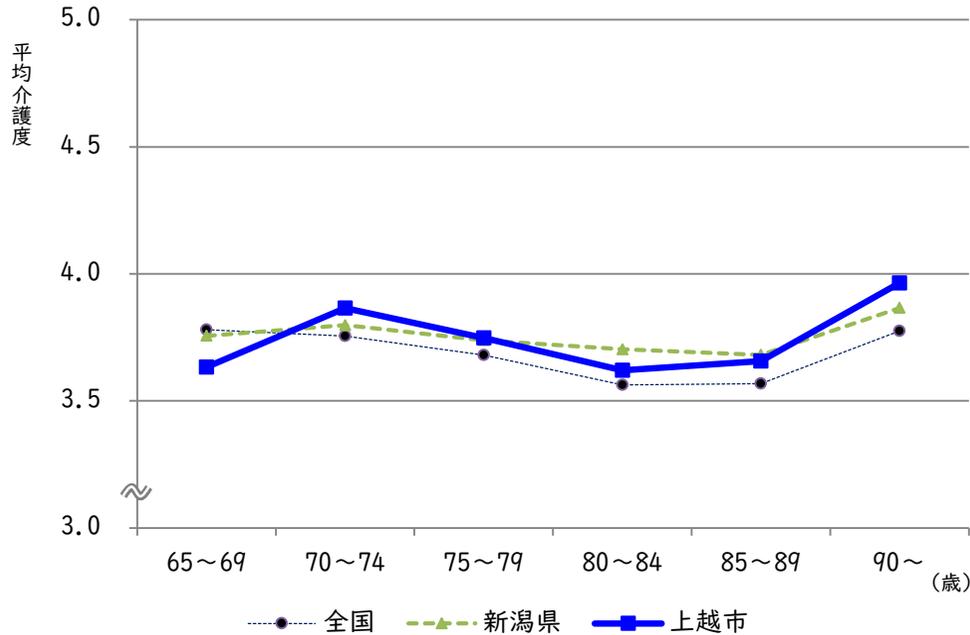


図 2-5-1 年齢階級別平均介護度【認定者のみ】(男性)

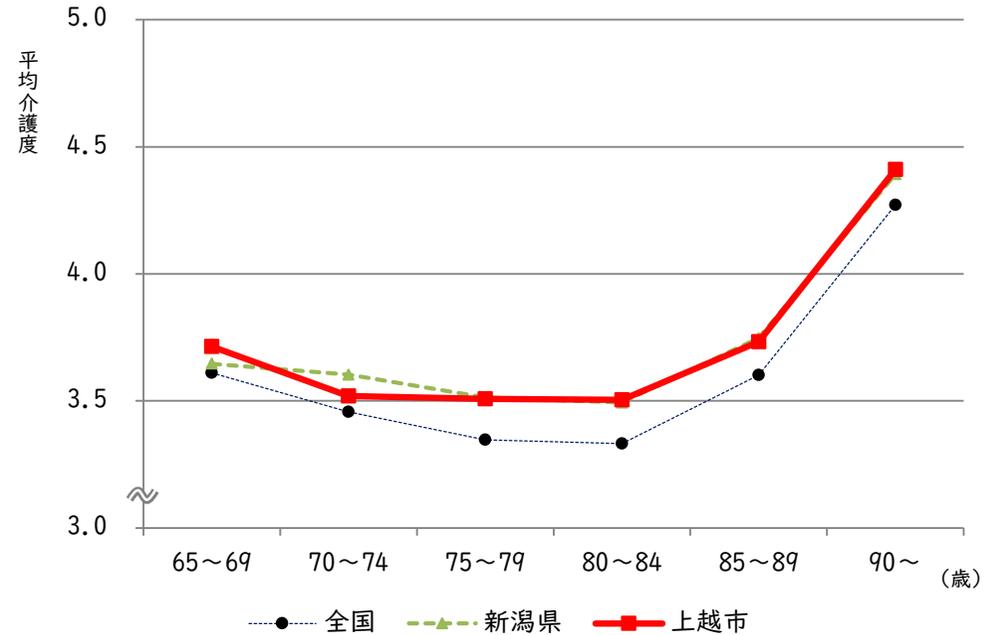


図 2-5-2 年齢階級別平均介護度【認定者のみ】(女性)

表 2-2-1 年齢階級別平均介護度【認定者のみ】(男性)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
上越市	3.63	3.87	3.75	3.62	3.66	3.96
新潟県	3.76	3.80	3.74	3.70	3.68	3.87
全国	3.78	3.75	3.68	3.56	3.57	3.77
全国との差	▲ 0.15	0.11	0.07	0.06	0.09	0.19

表 2-2-2 年齢階級別平均介護度【認定者のみ】(女性)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
上越市	3.71	3.52	3.51	3.50	3.73	4.41
新潟県	3.65	3.60	3.51	3.49	3.75	4.39
全国	3.61	3.46	3.35	3.33	3.60	4.27
全国との差	0.10	0.06	0.16	0.17	0.13	0.14

全国平均と同程度かやや高い

(3)平均介護度【認定者以外を含む】

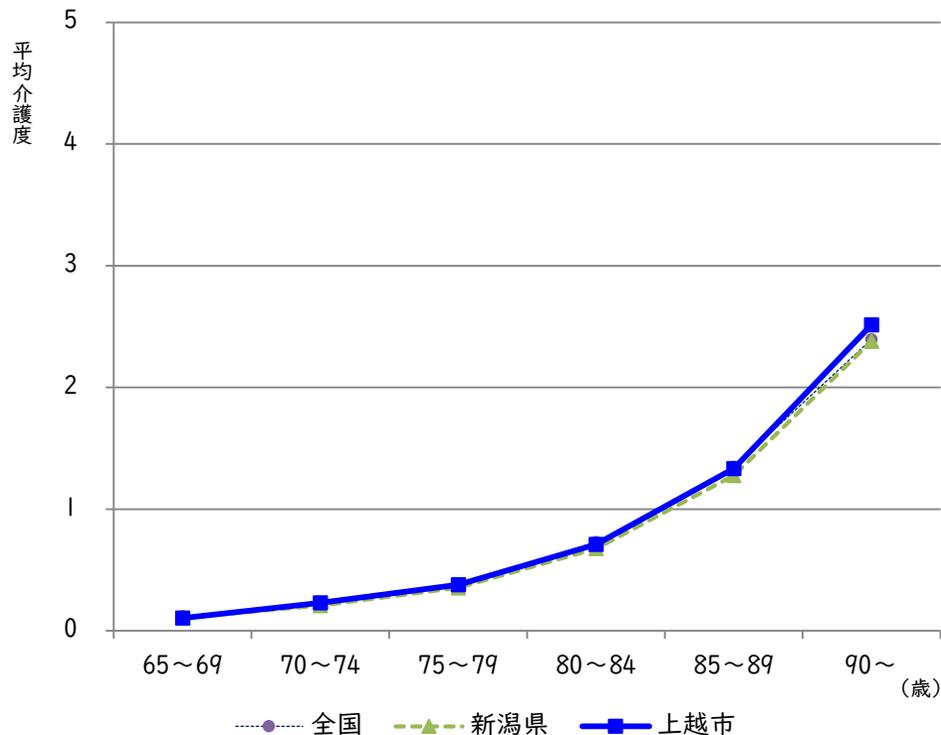


図 2-6-1 年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（男性）

表 2-3-1 年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（男性）

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
上越市	0.10	0.23	0.38	0.71	1.33	2.51
新潟県	0.11	0.21	0.35	0.68	1.28	2.38
全国	0.12	0.22	0.38	0.73	1.34	2.39
全国との差	▲ 0.01	0.01	0.00	▲ 0.02	▲ 0.01	0.12

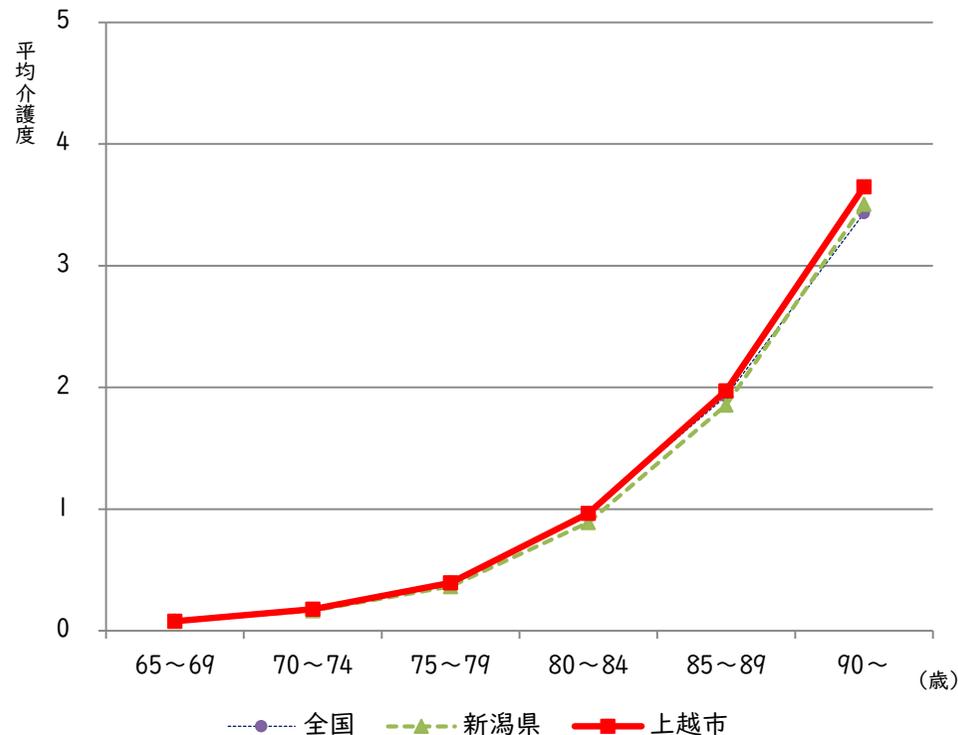


図 2-6-2 年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（女性）

表 2-3-2 年齢階級別平均介護度【認定者以外含む】（女性）

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
上越市	0.08	0.18	0.39	0.96	1.97	3.65
新潟県	0.08	0.17	0.36	0.89	1.85	3.50
全国	0.09	0.19	0.41	0.97	1.93	3.43
全国との差	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.00	0.04	0.22

全国平均と同程度か若干低い

やや高い

・認定者の平均介護度はどの年齢階級でもあまり変わらないので、要介護認定率の上昇に伴って全体の平均介護度も上昇しているといえる。

(4)介護費用 = 保険給付額、公費負担額、利用者負担額の合計額

- ・ 男女5歳階級別、地区別に算出
- ・ 単価は個人別の実際の実費ではなく、介護度ごとの上越市・全国平均値を使用

表2-4 介護度別の認定者数及び平均介護費用

	上越市の認定者数	1人当たり介護費用(年)	
		上越市	全国
要支援1	1,096人	131,174円	94,454円
要支援2	2,008人	224,594円	203,306円
要介護1	2,527人	1,231,900円	1,135,580円
要介護2	2,115人	1,860,064円	1,680,488円
要介護3	1,620人	2,811,896円	2,598,781円
要介護4	1,820人	3,405,441円	3,012,577円
要介護5	1,058人	3,734,363円	3,292,392円
合計	12,244人	-	-

出所：上越市の値 上越市高齢者支援課
 全国平均値 介護給付費等実態調査・介護保険事業状況報告

上越市と全国平均値の2種類を併用

- ・ 介護費用を健康度指標として見るとき 全国平均値を使用
- ・ 介護費用を健康度経費として見るとき 上越市平均値を使用

※介護サービスが充実している自治体では、その介護費用の平均値が高くなる傾向があるため

(4)介護費用

～被保険者1人当たり（全国平均と上越市の比較・男女5歳階級別）

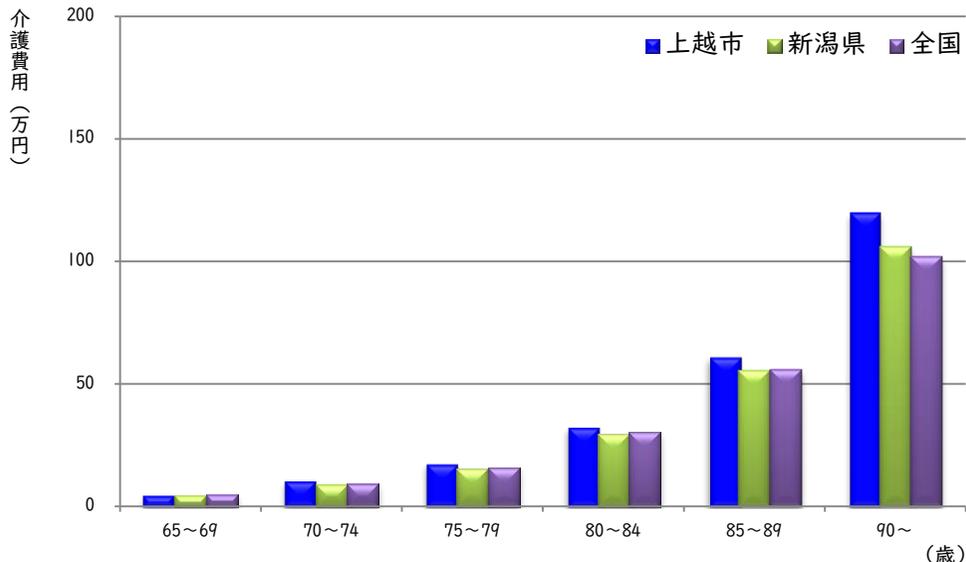


図2-7-1 年齢階級別1人当たりの介護費用（男性）

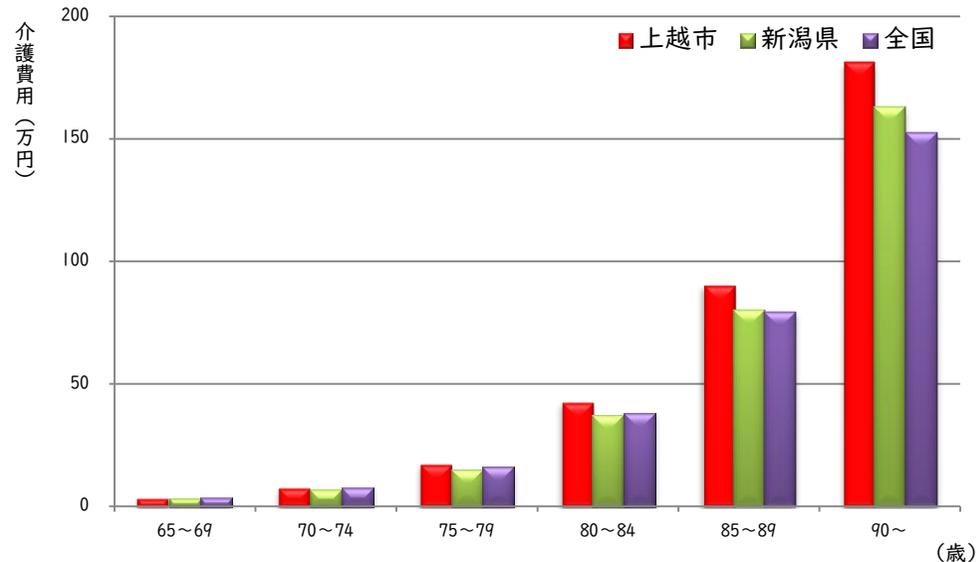


図2-7-2 年齢階級別1人当たりの介護費用（女性）

表2-5-1 年齢階級別1人当たりの介護費用（男性）

	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
上越市	48,083	106,818	175,281	324,584	609,334	1,196,553
新潟県	46,945	90,798	153,294	293,227	553,543	1,058,299
全国	49,959	92,933	158,459	300,970	556,703	1,018,641
全国との差	▲ 1,876	13,885	16,821	23,614	52,632	177,913

表2-5-2 年齢階級別1人当たりの介護費用（女性）

	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～
上越市	35,527	78,145	174,673	428,662	905,244	1,813,223
新潟県	33,459	69,781	151,835	371,521	803,071	1,628,704
全国	36,195	74,811	160,162	382,153	793,798	1,524,850
全国との差	▲ 668	3,335	14,510	46,508	111,445	288,373

全国平均と同程度かやや高い

・男女ともに85歳以上で、全国平均より顕著に高くなっている。

(4) 平均的介護費用との差額 (上越市・男女5歳階級別)

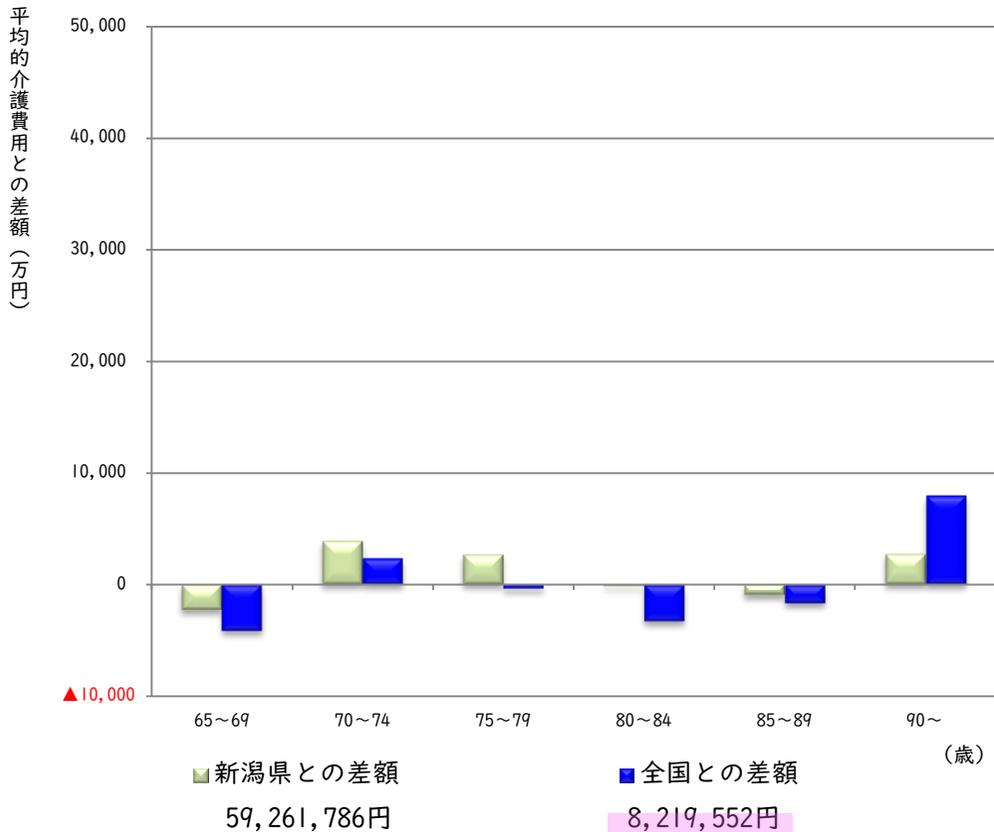


図 2-8-1 要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額 (男性)

表 2-6-1 要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額 (男性)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
新潟県との差額	▲ 22,462,277	38,663,221	26,753,824	▲ 1,518,658	▲ 9,181,962	27,007,638
全国との差額	▲ 41,244,361	23,404,856	▲ 3,765,092	▲ 32,707,127	▲ 16,706,102	79,237,378

一部の年代では平均介護度の低さから全国平均より下回るものの、各年代の費用差額を合計すると、全体として全国平均を約 **820万円上回っている**。

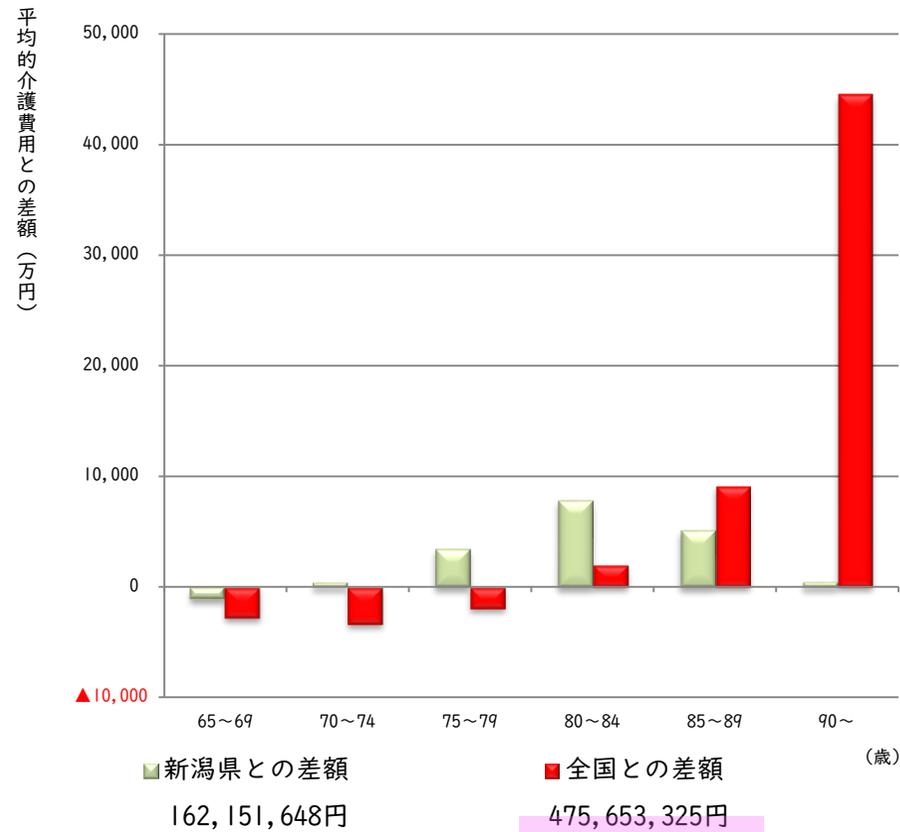


図 2-8-2 要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額 (女性)

表 2-6-2 要介護認定率・介護度別費用・介護度別を【新潟県・全国】にした場合の差額 (女性)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
新潟県との差額	▲ 10,425,255	4,610,495	34,353,902	77,842,401	51,025,637	4,744,467
全国との差額	▲ 27,770,596	▲ 33,567,385	▲ 19,671,958	20,065,892	91,408,149	445,189,223

79歳以下で若干抑制しているが、90歳以上の認定率の高さと平均介護度の高さが相まって、全体としては **4億7,560万円全国平均より増額**

(5)介護費用の将来予測 (人口現状推移モデル)

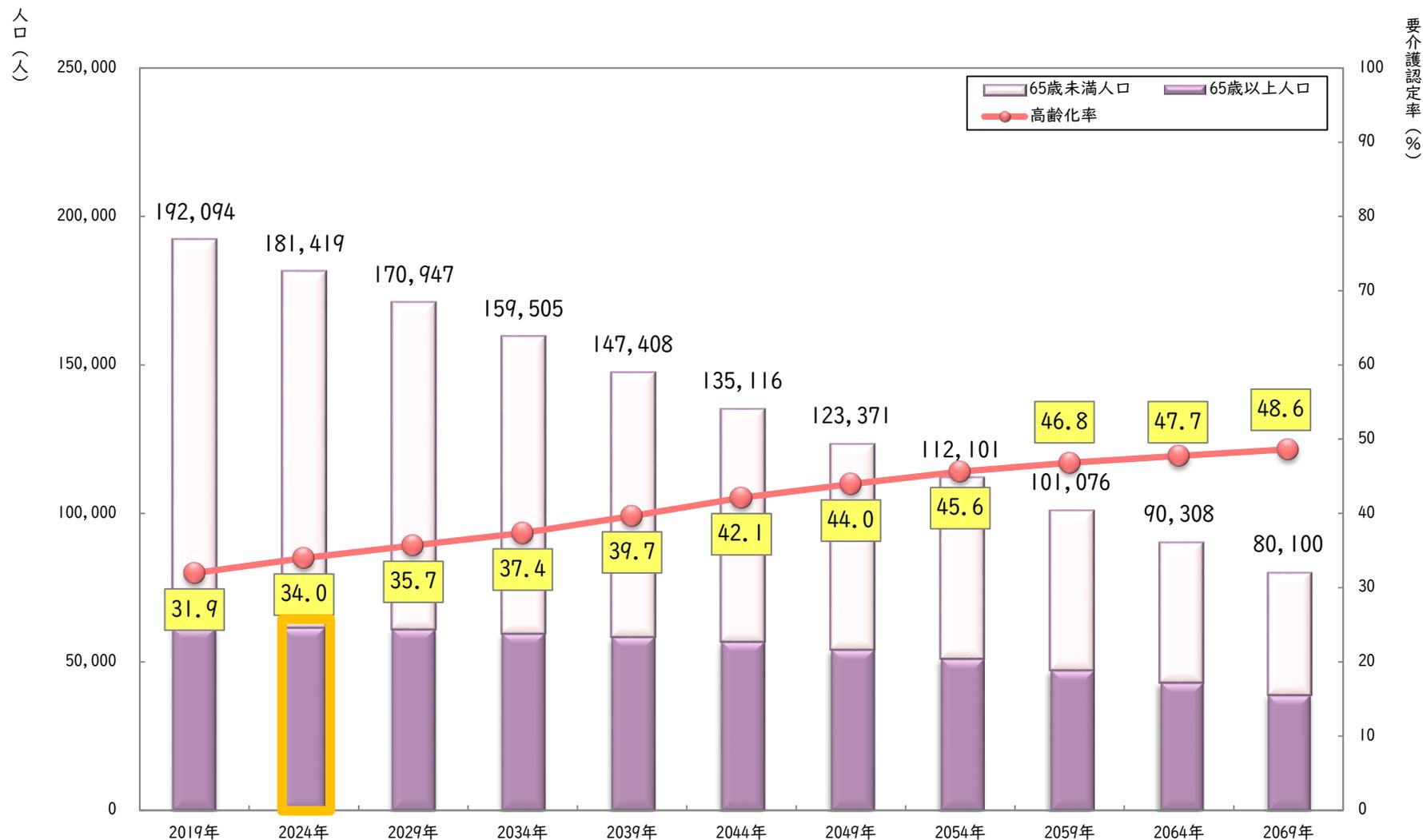


図2-9 今後の人口予測 (現行推移モデル)

・65歳以上の高齢者人口は、2024年をピークに減少する見込み

(5)介護費用の将来予測 (人口現状推移モデル)

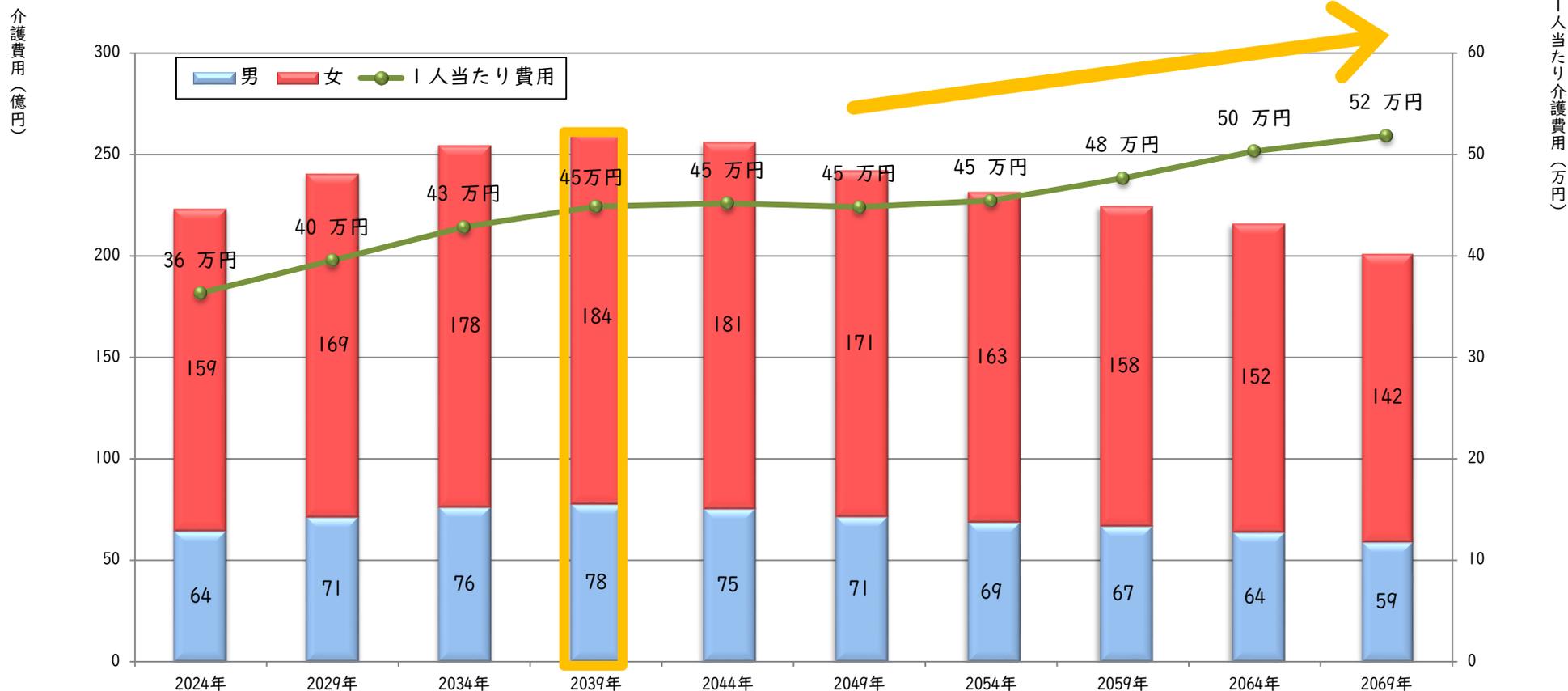


図2-10 年間介護費用の推移 (現行推移モデル) 費用上越ver.

- ・市全体の介護費用は、高齢者の年齢構成の影響により15年後の2039年がピーク
- ・その後減少に転ずるが、人口減の影響がより大きいいため、高齢者1人当たりの負担は増

(5)介護費用の将来予測(人口安定モデル)

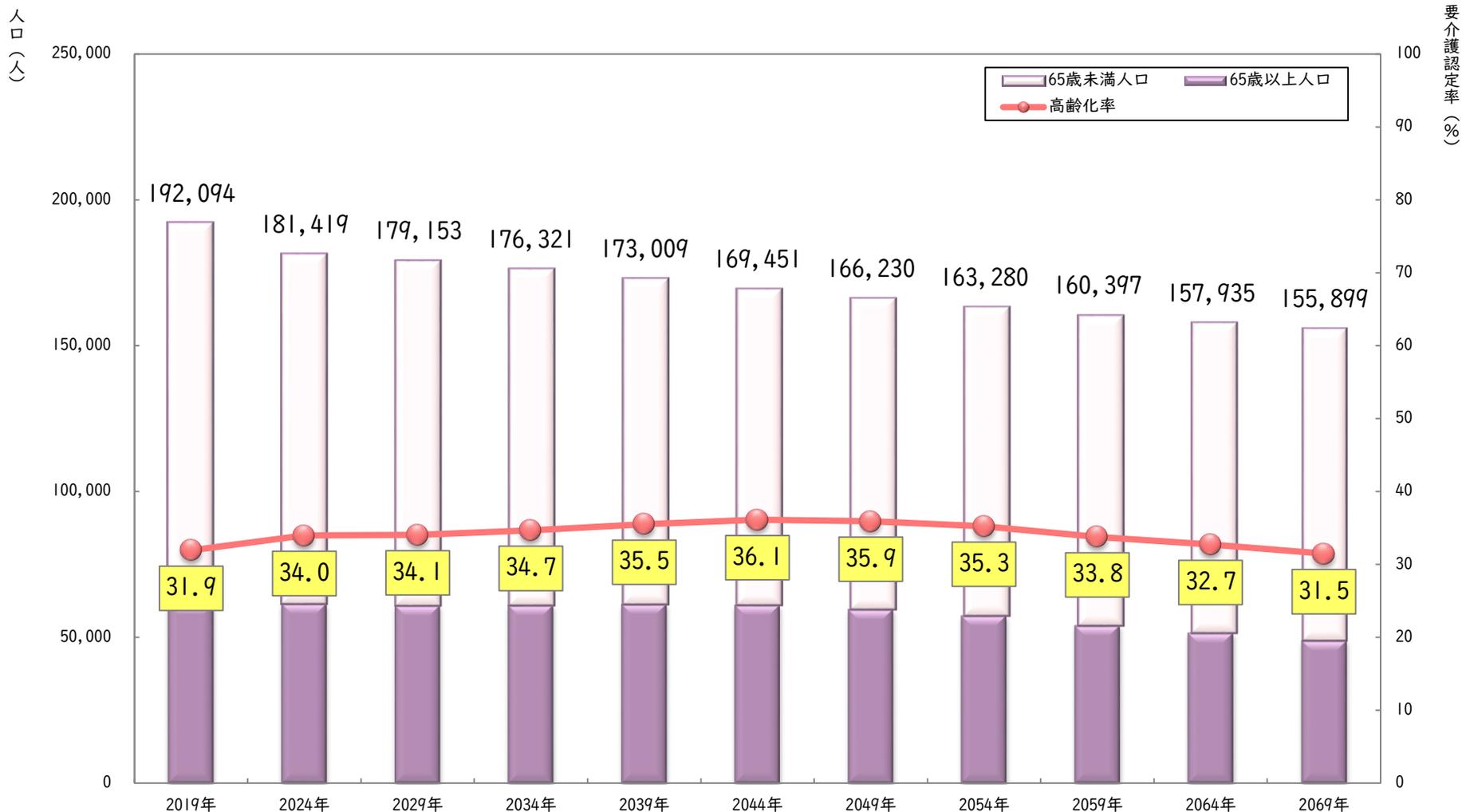


図2-11 今後の人口予測 (人口安定モデル)

- ・現在の人口の0.6%の定住人口増加により、人口は総合的に安定 (高齢者人口の減少割合が緩やかになる)

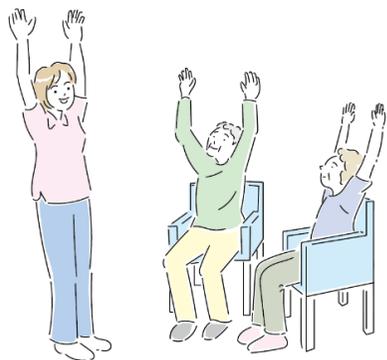
(5)介護費用の将来予測(人口安定モデル)

介護費用(億円)



図2-12 年間介護費用の推移(人口安定モデル) 費用上越ver.

- ・ 介護費用のピークは2039年で、現状推移モデルと変わりなし
- ・ ただし、介護費用の低下割合は小さくなり、2064年における減少率は約10%に留まる。
- ・ 定住人口が増加しても現在の介護の体制や施設で十分対応可能
- ・ 1人当たり費用も増加するものの、現状維持モデルよりも抑えられる。



01. 分析の目的
02. 分析方法
03. 分析の背景
04. 結果の概要（上越市全体）
- 05. 結果の概要（地域自治区別）**
06. まとめ

以下の項目について、地域自治区ごとに比較したとき地域性はあるか。

- ① 要介護認定率
- ② 要介護認定を受けた場合の平均介護度
- ③ 年齢階級別の介護費用（被保険者1人当たり全国平均との差額）

図表の一覧

図3-1	地区別 被保険者数・認定者数・認定率（男性）【65歳以上】	3-1
図3-2	地区別 被保険者数・認定者数・認定率（女性）【65歳以上】	3-2
図3-3-1	要介護認定率と高齢化率（男性）	3-3
図3-3-2	要介護認定率と高齢化率（女性）	3-3
図3-4-1	人口指標と認定者以外率（男性）	3-4
図3-4-2	人口指標と認定者以外率（女性）	3-4
図3-5-1	平均介護度【認定者のみ】と認定率（男性）	3-5
図3-5-2	平均介護度【認定者のみ】と認定率（女性）	3-5
図3-6	地区別 介護費用・認定者率・介護度が全国平均になった場合の介護費用の差額（被保険者1人当たり）	3-6



(1)要介護認定率(28地域自治区別)(男性)

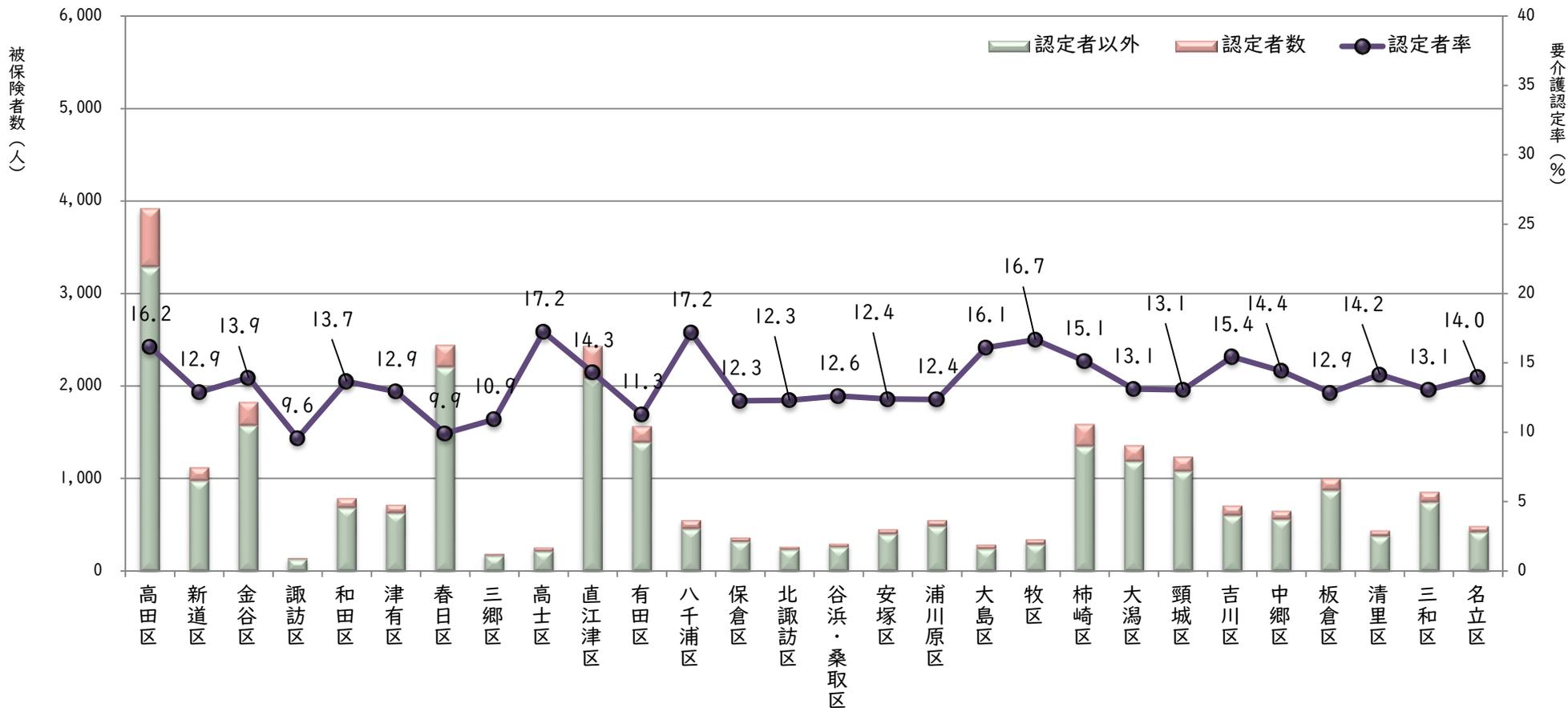


図3-1 地区別 被保険者数・認定者数・認定率(男性)【65歳以上】

(1)要介護認定率(28地域自治区別)(女性)

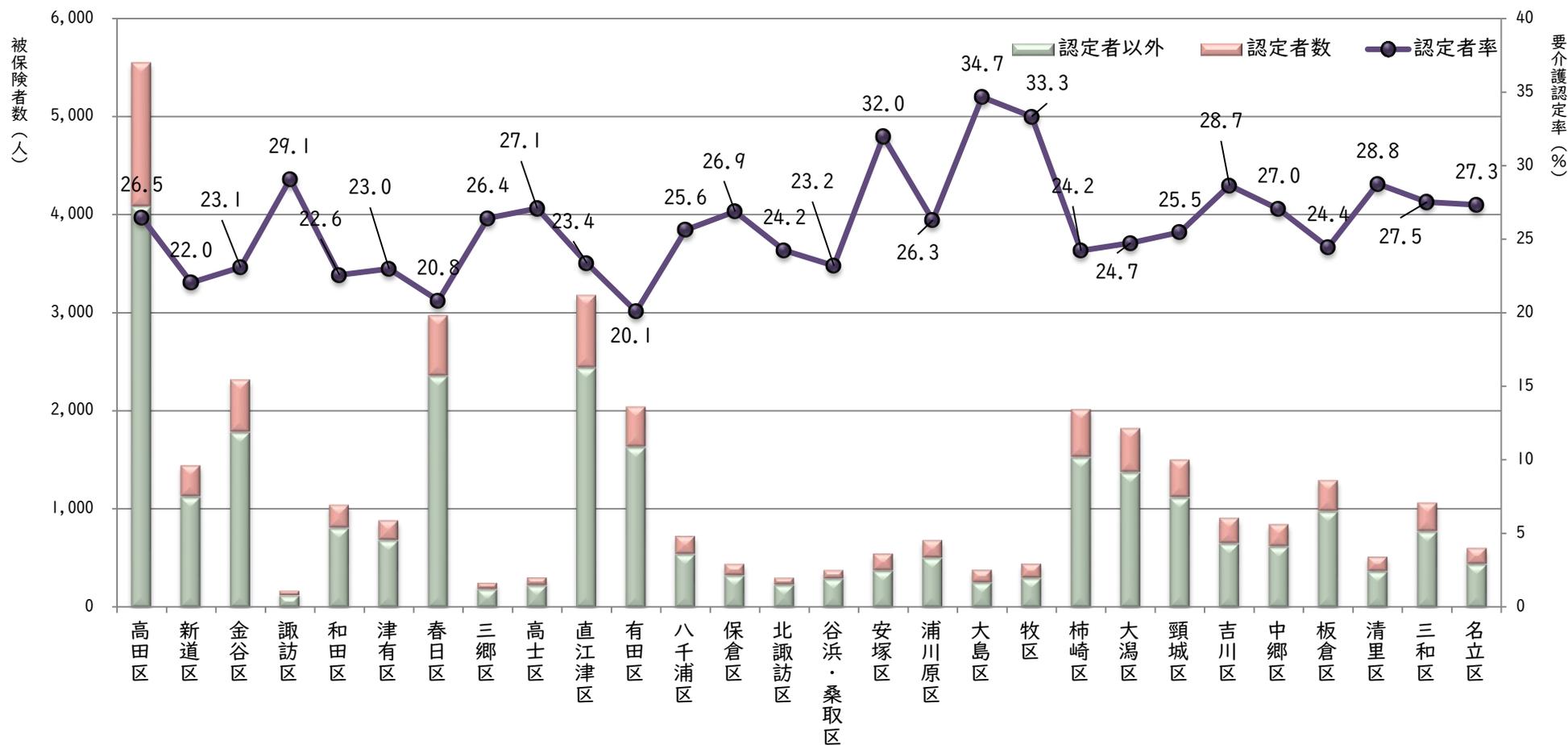


図3-2 地区別 被保険者数・認定者数・認定率(女性) 【65歳以上】

(2)要介護認定率と高齢化率の関係 (全国・上越市・市内28区別・男女別)

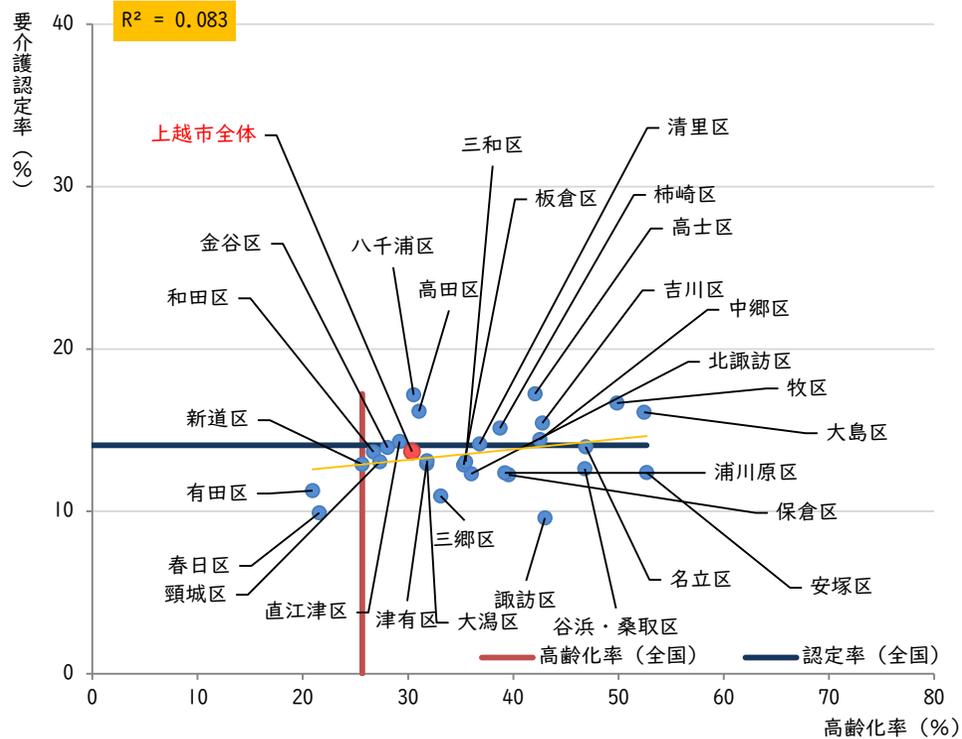


図3-3-1 要介護認定率と高齢化率 (男性)

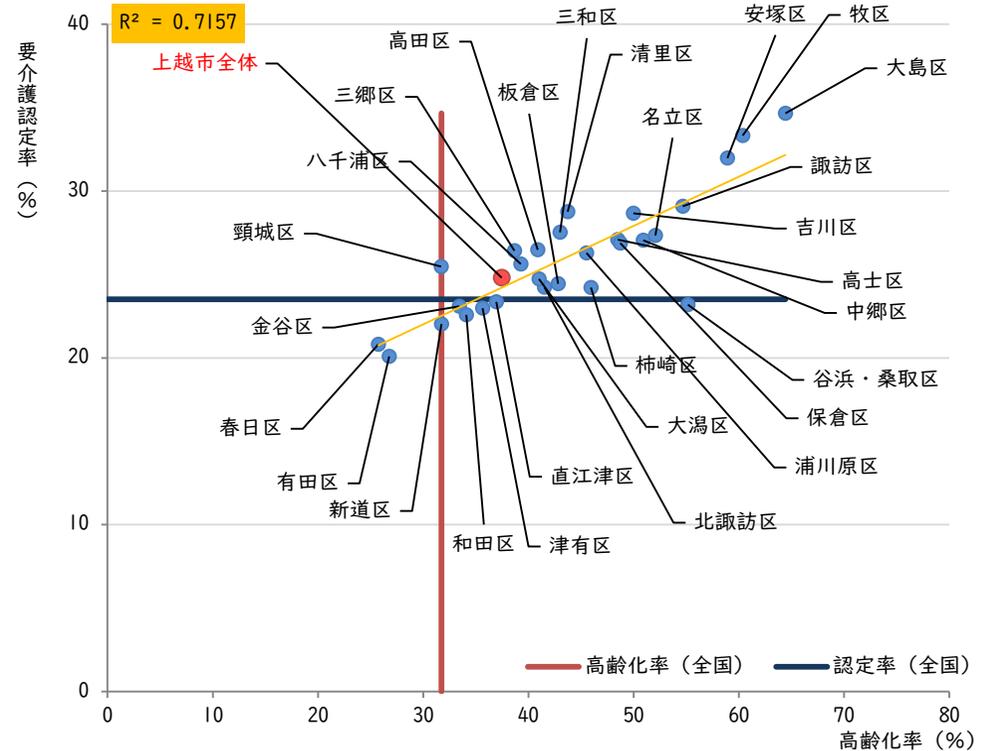


図3-3-2 要介護認定率と高齢化率 (女性)

- ・ 高齢化率が高い地区は、要介護認定率も高い傾向 (特に女性)
- ・ ただし、男性の場合は、高齢化率以外の影響も出ている

(3)人口指標と要介護認定率の関係 (全国・上越市・市内28区別・男女別)

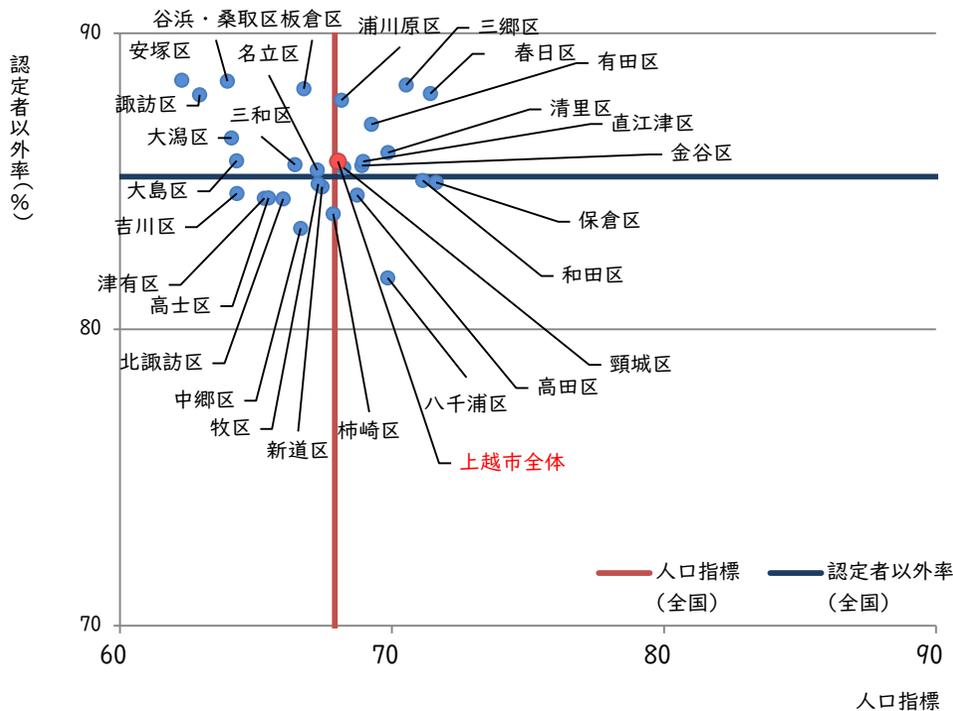


図3-4-1 人口指標と認定者以外率 (男性)

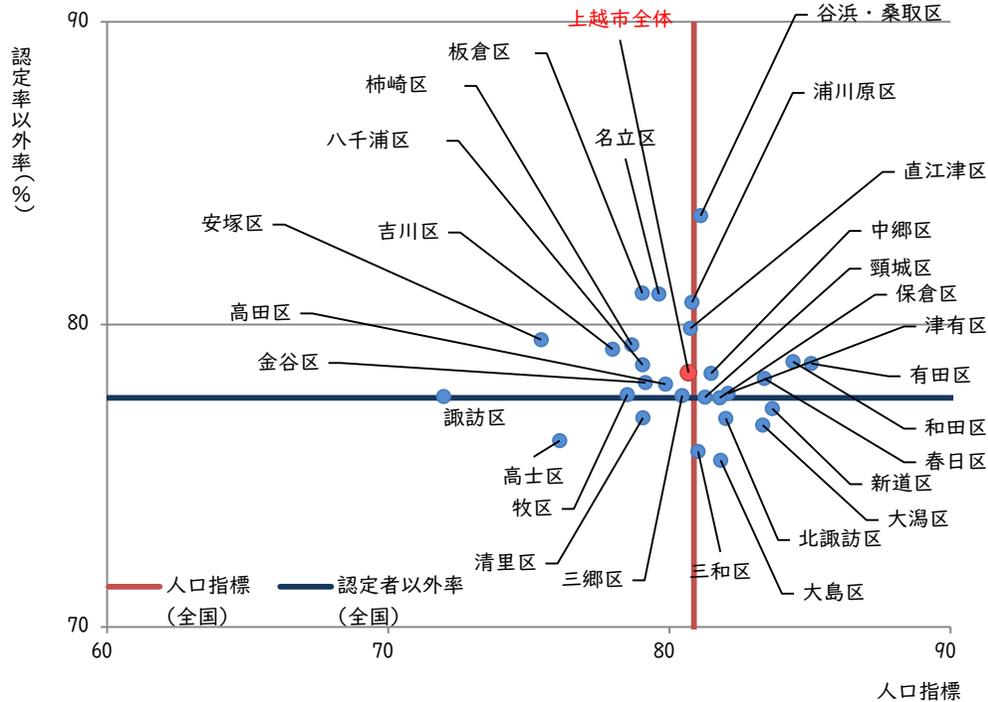


図3-4-2 人口指標と認定者以外率 (女性)

- ・ 男性の方が認定者以外率（お達者度）が高く、女性の方が人口指標（長生き度）が高い傾向
- ・ 男女ともに各地区間でかなりバラつきがある。
 - 男性 お達者度 1位 安塚区 28位 八千浦区の差 6.7%
 - 長生き度 1位 保倉区 28位 安塚区の差 9ポイント
 - 女性 お達者度 1位 谷浜・桑取区 28位 大島区の差 8.1%
 - 長生き度 1位 有田区 28位 諏訪区の差 13ポイント

(4)平均介護度(認定者のみ)と要介護認定率の関係

(全国・上越市・市内28区別・男女別)

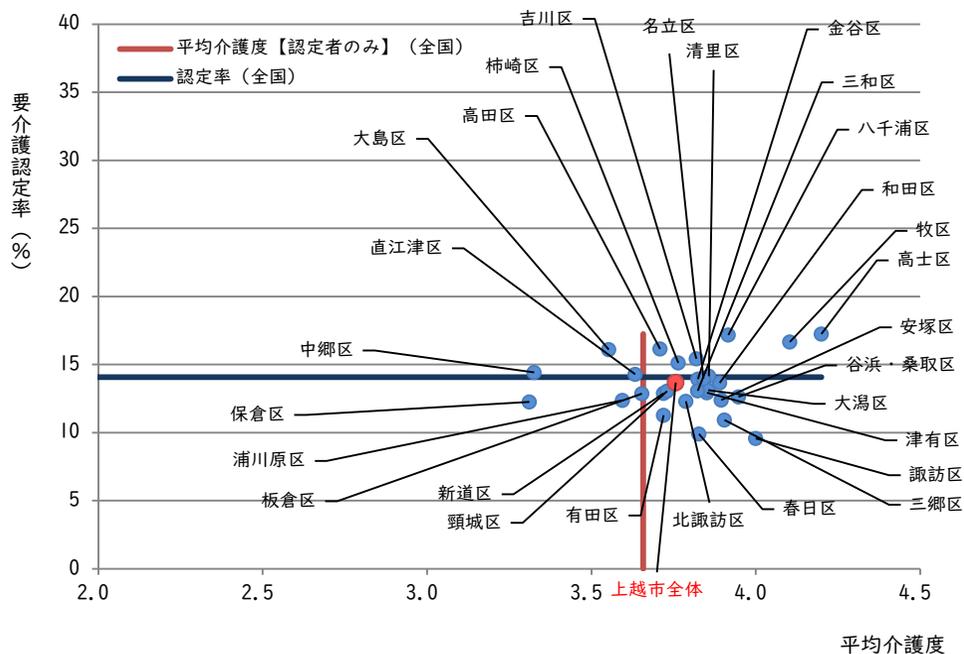


図3-5-1 平均介護度【認定者のみ】と認定率（男性）

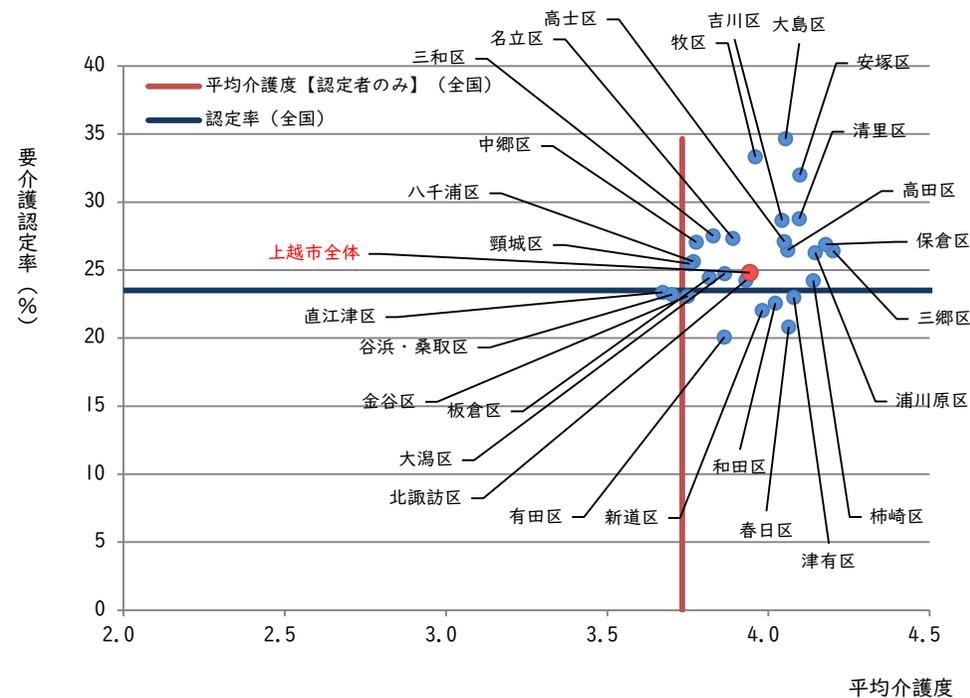


図3-5-2 平均介護度【認定者のみ】と認定率（女性）

- 男性・女性ともに、認定者の平均介護度は、全国平均よりも高い区が多い
 ➡いったん要介護認定を受けると、その介護度が高い傾向

(5) 平均的介護費用との差額(年額)

～被保険者1人当たり全国平均との差額 (28区別)

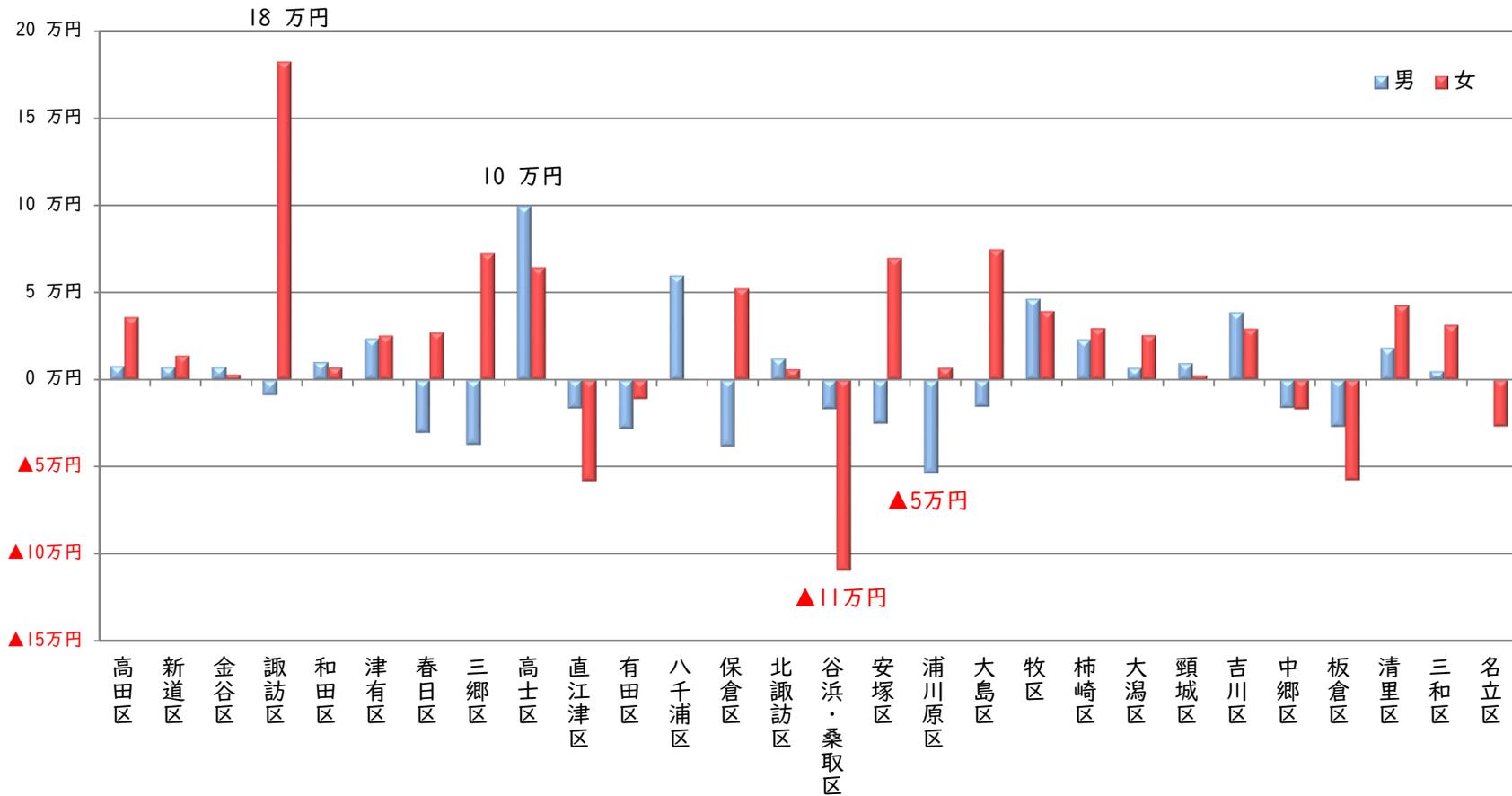
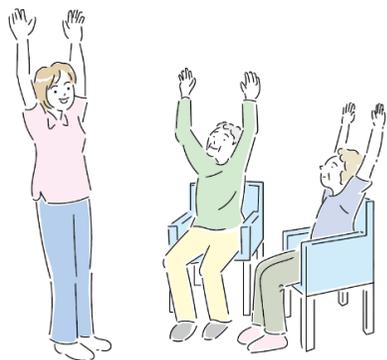


図3-6 地区別 介護費用・認定者率・介護度が全国平均になった場合の介護費用の差額 (被保険者1人当たり)

- ・ 全国平均より高額：男性 高士区 女性 諏訪区
- ・ 全国平均より抑制：男性 浦川原 女性 谷浜・桑取区



01. 分析の目的
02. 分析方法
03. 分析の背景
04. 結果の概要（上越市全体）
05. 結果の概要（地域自治区別）
- 06. まとめ**

- 年代別の要介護認定率は、男女ともにどの年代も同程度か若干低い（ただし、女性の90歳以上はやや高い）
- 長生き度、介護認定を受けていない人の割合は同程度
- 介護認定を受けている人の平均介護度は同程度かやや高い

平均介護費用が、特に高齢女性で増額

高齢者の年齢構成の影響により、15年後（2039年）に介護費用がピークとなると予測
その後、減少に転ずるが、人口減の影響がより大きいいため、住民1人当たりの負担は増

現在の人口の0.8%の定住人口増加で総合的に人口は安定
1人当たり費用も増加するものの、現状維持モデルよりも抑制

- 要介護認定率は、男性で9.6%～17.2%、女性で20.1%～34.7%と地域間で大きな差がある。
- 要介護認定率と高齢化について、女性では一定相関が見られるものの、男性は相関がほぼなく、高齢化以外の影響があると考えられる。
- 要介護認定率と人口指標の関係を見ると、男女ともに地域間でかなりバラつきがある。

➡ 介護費用・認定者率・介護度が全国平均になった場合の介護費用の差額（被保険者1人当たり）は、地区間でかなり差がある。

高額 男性 高士区 100千円

女性 諏訪区 182千円

抑制 男性 浦川原区 ▲53千円

女性 谷浜・桑取区 ▲109千円

介護費用は、地域により高低があるものの、その地域特性は見えづらい。

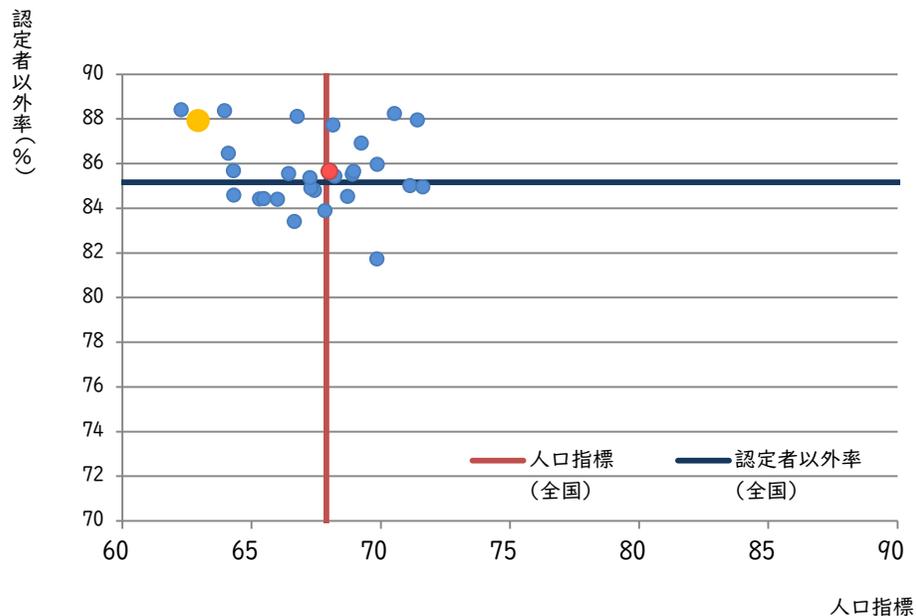
➡ 令和7年度 モデル地区で要因分析を実施予定

健康度は介護保険データのみで網羅的に把握できるものではなく、複数の要素を総合的に考慮して判断すべき

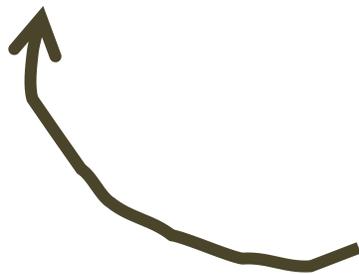
➡ 令和7年度 後期高齢者医療費データも同様に分析することで、より多角的な検証を目指す

特別養護老人ホーム入所者の補正等について

補足事項



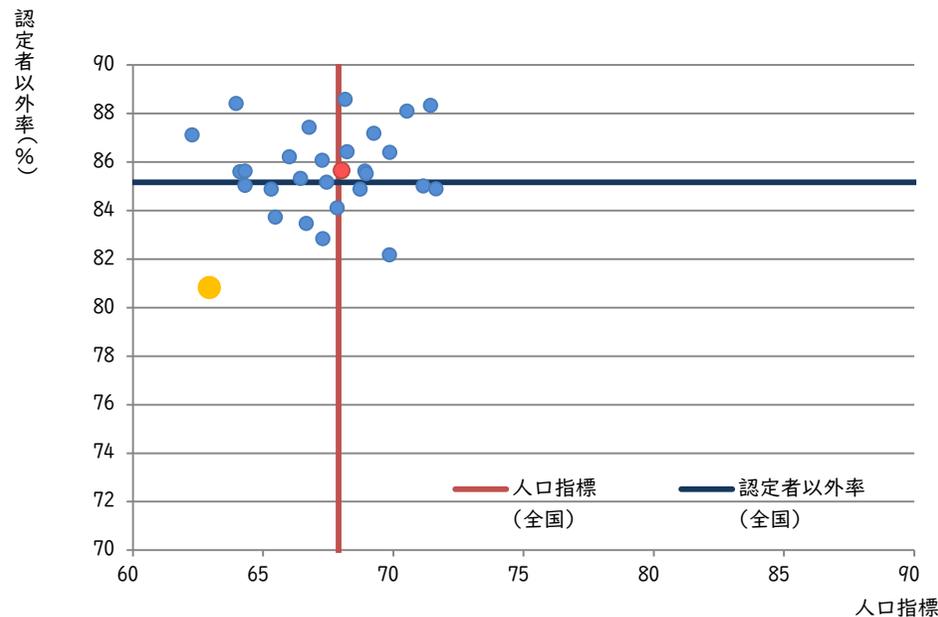
図補一 2 人口指標と認定者以外率【特養入所者 補正後】



特別養護老人ホーム入所者を入居前の居住地に戻すと、●の区では、認定者以外率が約9%上昇



●の区のもともとの居住者は、要介護認定を受けていない人の割合が88%と全国平均より高かった



図補一 1 人口指標と認定者以外率【特養入所者 補正前】

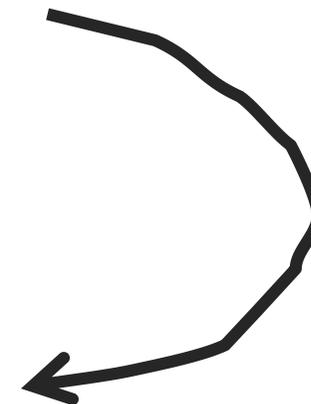
		0~39	40~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
年齢階級・介護 度別被保険者人 口	女人口	0	0	33	38	26	27	18	23
	女認定者以外	0	0	31	36	22	17	8	3
	要支援1	0	0	0	0	0	1	0	0
	要支援2	0	0	0	0	0	0	2	1
	要介護1	0	0	1	1	1	2	4	3
	要介護2	0	0	0	0	0	2	2	5
	要介護3	0	0	0	0	1	5	0	2
	要介護4	0	0	0	0	2	0	1	3
	要介護5	0	0	1	1	0	0	1	6
	女認定者数	0	0	2	2	4	10	10	20
	女受給者数	0	0	2	2	4	10	10	20

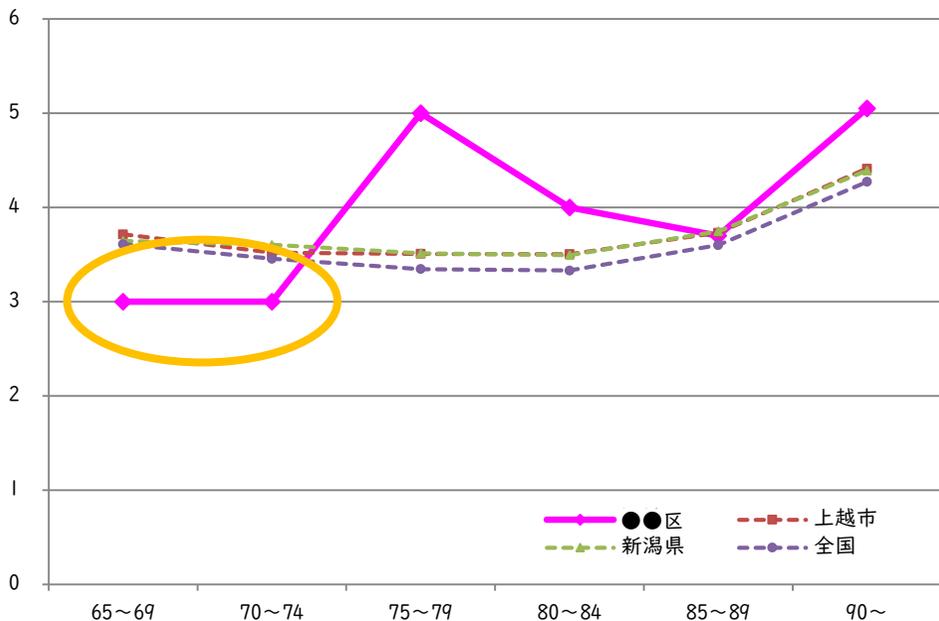
表補一 1 年齢階級・介護度別被保険者人口

65~69歳、70~74歳で各1名ずついる要介護5の方が0になると・・・

		0~39	40~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
年齢階級・介護 度別被保険者人 口	女人口	0	0	33	38	26	27	18	23
	女認定者以外	0	0	32	37	22	17	8	3
	要支援1	0	0	0	0	0	1	0	0
	要支援2	0	0	0	0	0	0	2	1
	要介護1	0	0	1	1	1	2	4	3
	要介護2	0	0	0	0	0	2	2	5
	要介護3	0	0	0	0	1	5	0	2
	要介護4	0	0	0	0	2	0	1	3
	要介護5	0	0	0	0	0	0	1	6
	女認定者数	0	0	1	1	4	10	10	20
	女受給者数	0	0	1	1	4	10	10	20

表補一 2 年齢階級・介護度別被保険者人口【仮定】





図補-4 平均介護度【認定者のみ】【仮定】

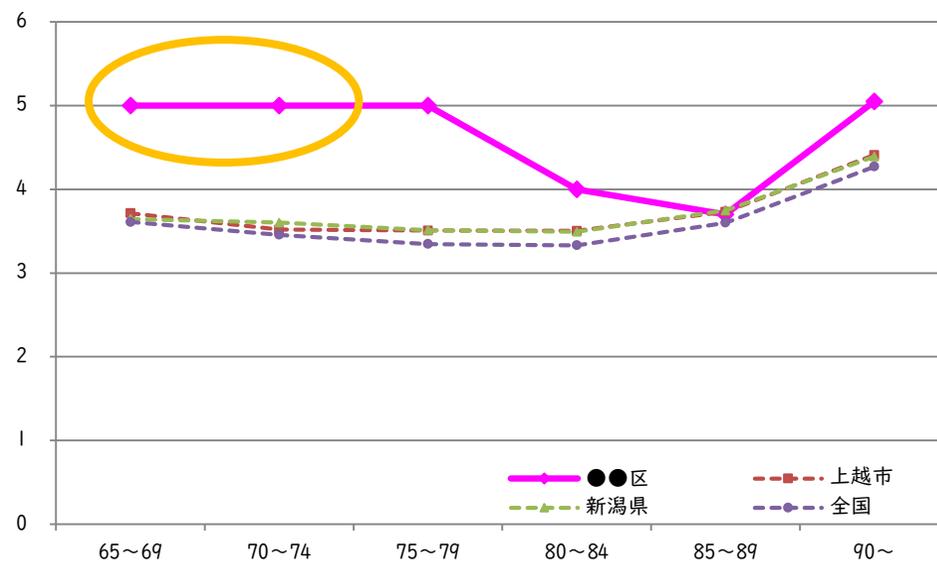
平均介護度が2下がる



人口規模の小さい地区においては、要介護認定者のわずかな増減が、当該年代の平均介護度に大きな変動をもたらす可能性がある



他地区との比較分析を行う際には、この個人影響度の高さを考慮する必要がある



図補-3 平均介護度【認定者のみ】

生残率

生残率ともいい、ある年齢階層がどれだけの比率で生き残るかを算出した数値。5歳刻み90歳以上までの階層ごとコーホート変化率を乗算することで、ある年齢階層から各階層までの生残率を算出することができる。

例：65～69歳→75～79歳の生残率

$$= 70 \sim 74 \text{歳コーホート変化率} \times 75 \sim 79 \text{歳コーホート変化率}$$

※コーホート変化率

コーホートとは、同期間に出生した年齢集団のことで、一般的に男女それぞれを5歳刻みに計算する。このコーホートをもとに、人口の過去の増減率を分析し、将来の人口を推計する方法をコーホート変化率法という。この方法では、過去の人口動態が将来も継続すると仮定して、将来の人口を予測する。

人口指標

65歳以上の各年齢階層人口を100として、各階層人口に該当の65歳からの生残率を乗算し、65歳からの生残数を算出する。算出した65歳～90歳以上までの生残数を面としてとらえ、その面積を合計して5で除したものが人口指標となる。除算前では最大で500となるが、5で除算することで100を最大としている。100に近いほど長寿な地域であるといえる。

上越市内地区別の地域介護分析について
令和7年3月 上越市創造行政研究所

住 所 〒943-0804 新潟県上越市新光町1-8-11

電 話 025-526-3490

メー ル souzou@city.joetsu.lg.jp

W e b <https://www.city.joetsu.niigata.jp/site/souzou-gyosei/>